

令和4年度 第2回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

日 時：令和5年3月8日（水）

10時00分～12時00分

場 所：18階共用会議室みなと6・7

議題

1 審議事項

- (1) 令和4年度事業進捗・仮評価及び令和5年度事業計画について
- (2) 旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について

2 その他

資料

① 次第

② 【資料1】 委員名簿

③ 【資料2】 前回議事録（令和4年8月10日開催分）

④ 【資料3】 令和4年度事業評価シート

⑤ 【資料4】 令和5年度事業評価シート

⑥ 【資料5】 旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について

委員名簿

	氏名	所属団体(役職名)		出欠
委員長	野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	○
副委員長	六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	○
	遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	○
	岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	○
	菅野 幸子	アーツ・プランナー／リサーチャー		○
	治田 友香	関内イノベーションイニシアティブ(株)	代表取締役社長	○
	日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	○
	簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	○
	山口 真樹子	国際文化交流・コミュニケーション		○

令和4年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和4年8月10日（水）10時00分～12時17分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと6・7
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、日沼委員、簗谷委員、山口委員
オブザーバー	恵良氏、加藤氏、山野氏、西倉氏、細淵氏、矢野氏、岡田氏、橋口氏
欠席者	治田委員
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 （1）令和3年度事業評価について （2）旧第一銀行横浜支店の公募結果について 2 その他
決定事項	
	<p>事務局</p> <p>【開会】 ○令和4年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【挨拶】 ○文化観光局文化芸術創造都市推進部長から挨拶が行われた。</p> <p>【事務局紹介】 ○人事異動に伴う事務局紹介が行われた。</p> <p>【資料確認】 ○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】 ○委員9名中8名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項（2）については、同条例第7条第2項に基づき非公開とするが、よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（了承）</p> <p>1 審議事項（1）：令和3年度事業評価について ＜事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。＞</p> <p>野原委員長 ○各分科会の議長から説明をお願いします。 山口委員 ○急な坂スタジオは、感染対策という点でも、アーティストへのサポー</p>

		<p>トという点でも、慎重かつ丁寧に運営されていて、それが長期的に見ても非常に重要な成果を生み出していると私たちは評価しています。国内もさることながら、国際的に活躍するアーティストも次々に輩出されていますし、また、新しい世代にサポートアーティストを移していくことについても期待しています。令和3年度はコロナの影響がまだあったにもかかわらず感染者が出ませんでしたし、子供向けの事業や小学校へのアーティストの派遣も非常にいい成果になっています。また、これまでの実績をデータとしてまとめるというお話もあり、急な坂スタジオの取組の成果のプレゼンテーションになるだけでなく、創造都市施策としての成果、また、アーティストなどの制作側、もしくは支援も含めた観客の方々にとっても一つの宝物、あるいはレファレンスになるようなものになればいいなと思っています。</p> <p>日沼委員 ○黄金町は、コロナ禍における経験値、方法論が積み上がり、アーティスト・イン・レジデンスの受け入れをフレキシブルにスタートすることができています。現場の皆さんからも意義ある活動をしようという意気込みを感じる報告もあり、非常に期待しているところです。一方で、レジデンス事業は、BankART1929 やその他の拠点でも行われているため、差別化が大事で、黄金町の強みを考えていくという意味でも必要になってくるだろうという話をしました。次に、ソフト事業をしながら、滞在施設などのハード整備もする黄金町ならではの運営に非常に苦労されているという印象を受けました。また、他エリアへの展開のニーズも出てきている一方で、どの仕事に重点をおくかのバランスが、これからどんどん課題になってくると思っています。それから、他の拠点でもスクール事業を行っていますので、やはり差別化というか、事業の中で見直しが必要ではないかという話が挙がっています。最後に、その年々の実績を非常に大きく評価しているところですが、それを数値化、データ化していくことが大きな課題になっていると思います。実績が見える形にするという大きな見直しに、市全体で取り組んでいただきたいという意見が出ました。拠点だけの課題ではなく、創造界隈拠点全体の取組として、ぜひ検討していただきたい。</p> <p>簗谷委員 ○BankART1929 は、コロナの影響でいうと、経済面ではカフェやショップの売上は減っていますが、助成金などで収入面ではカバーできています。それから、スクール事業も1年半ぶりに再開しましたが、定員を確保できています。アーティストの活動支援では、展示スペースだけではなく、制作の場という要素が強みとしてうまく機能している点が分科会で評価されています。また、オンラインミーティングによる海外とのネットワークについて、リアルでイベントができなくても、そういう関係性を維持できているということを高く評価すべきという意見が出ていました。それと、都市デザイン横浜展が盛況だったということですが、SNS での広がりもあり、これまでの取組の積み重</p>
--	--	---

	菅野委員	<p>ねでファンがついていることや、ネットワークが機能している証拠であろうということで、このあたりも高く評価されています。それから、Under35 ですが、1つ作品が売れて、1つ仕事につながり、1回プレスに取り上げられるという、1・1・1というような言い方をされていたと思いますけれども、そういう目標を自ら設定して実現していることも、かなり高く評価しています。課題としては、さらなる経済的自立や話題化という点で、例えば、カフェの充実化やギャラリービジネスの展開といった意見がありました。総評にあります、アーティストと一般客の居心地のよさというのはバランスをうまく取らないといけないという意見や、事業展開の中で、例えば新事業による収入増と、市の補助金との兼ね合い等、公共性とビジネスのバランスについて市とすり合わせる事が課題だろうという意見がありました。</p> <p>○象の鼻テラスは、運営は非常に安定しており、コロナ禍という大変厳しい中で、実績を着実に積み重ねておられ、運営団体のご努力と信頼できる運営体制に対して、全体的に高評価でした。PORT JOURNEY の取組として鶴見で実施している we Trees というアートプロジェクトでは、コロナ禍で非常に難しい状況ではあったと思いますが、Zoom の活用やいろいろなワークショップを地元の方たちと展開し、何とか継続させようとされていて、そういった取組も非常に評価が高かったです。それから、フューチャースケーププロジェクトは不特定多数の市民を対象にしており、市民の取組に寄り添い、未来に向けたプロジェクトとして取り組んでいることが、象の鼻テラスの個性であり、他の拠点との違いという点でも評価が高かったです。一方で、こういったプロジェクトが、今話題となっているウェルビーイングやクオリティ・オブ・ライフという、市民の日常に寄り添ったプログラムに変わってきているのではないかと、そういった観点からの評価軸が必要ではないかというご指摘が一つありました。それから、自己評価や委員会の評価について、これまでナラティブを中心とした形での評価でしたが、事業のインパクト、社会的な効果をどのように評価するか、ビフォーアフターを具体的に評価する時期なのではないか、また、それは市とどのようにやっていくか考えていくべきではないかというご指摘がありました。数値目標だけではないのですが、具体的な目標を設け、それとナラティブ、あるいはデータ、エビデンスなど、何に基づいて評価をするのが重要という意見も出ました。</p>
	野原委員長	<p>○THE BAYS は、コロナ禍においてもいろいろなプロジェクトにチャレンジされており、活動量の豊富さという意味では、委員から評価をいただいております。一方で、活動自体が創造都市施策の中でどのように行われているか少し見えにくいとか、基本方針①の「関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる」を1つの拠点だけで成し遂げるには目標があまりに大</p>

き過ぎて難しく、具体的な目標が逆に曖昧になっているところもあるので、この場所で何をミッションとしてやっていくのかという意識合わせが必要になるのではというご意見がありました。また、いろいろなお客さんや利用者を獲得されている中で、そこへの波及効果がもう少し可視化され、どういう結果につながったのかがきちんと見えることも大事なのではないかと。それが、ひいては結果的に活動の見直しや、よりよくする原点にもなるのではないかと。他の拠点でもデータの話がありましたが、具体的な情報、データを集めて具体化することが次の方向性にもつながるといいのではないかという話もございました。あと、クリエイティブ×スポーツを取組のメインに置いているのですが、そのクリエイティブの部分がかもう少し見える化がされると、どのような形で創造都市施策に寄与しているかが見えてくると思うので、今後は、創造都市の方向性ともうまくすり合うような形の活動であったり見せ方だったりが必要とされているのではないかと、という評価だったと思います。また、毎回出てくる話としては、広報です。各拠点の取組を、創造都市施策の広報としてどう見せていくか。今までの広報の効果や結果を見た上で、拠点側からも、こういう告知や広報が欲しいとか、こういうのを一緒にやりたいとか、市と連携してこういう形でやりたいとか、市とも一緒に考えながらやっていくことが大事なのかなと。そういったところの議論がありました。

○続きまして、ディレクターの皆様からも一言コメントをいただきたいと思います。

加藤氏

○急な坂スタジオについて、なかなか大変だなというのが正直なところでは。演劇公演はスタートしているのですが、公演の途中で関係者が体調不良になり、検査したらコロナ陽性になってしまって公演中止というのがいまだに続いている状態です。ようやくイベント前の検査が不要になったので、ここからちょっと変わっていくかなと思っています。今年度から新たに5年間、運営をさせていただけることになりました。最も力を入れて取り組みたいと思っているのが世代交代でして、まず私自身がディレクターを退任し、私よりできれば一回りぐらい若い人にディレクター職を譲りたいと思っています。また、業界全体の課題として考えなければいけないのは、コロナ禍の3年間で学生時代を過ごした人たちが、この先、舞台芸術やアートに関連する仕事に就きたいと、果たして想像できるだろうかということです。コロナ禍で作品を作れているアーティストは強い人たちだと思うので、多分今後も作り続けられるのですが、さらに若い世代、今、中学、高校の多感な時期にマスクをしながら過ごした人たちが、どうやって舞台芸術の作品と出会い、それがすばらしいものだ、面白いものだと感じてくれるか、ということを知るための期間みたいなものを丁寧につくっていくことが、この先、重要なことではないかと思っています。

<p>山野氏</p>	<p>○黄金町も結構大変な1年を過ごさせていただきました。レジデンスの公募を再開し、若干減少していたレジデンスアーティストの数字は戻りました。海外の公募も再開し、いつ来てもよいとのことで14名を採用したら、今年、続々と来ております。だから今、ある意味黄金町は外国人だらけの状態です。元の状況には戻ったという感じです。それともう一つ、前年度はエリアを広げるという方向性を考え、地域間の付き合いがあまりないところ同士を、アートというキーワードでつなぎ、さらに交通、宿泊、もちろん、商業施設みたいなものも入ってくる、そういう総合的な組合せの中での実験的な企画を行いました。これが一つの将来の、黄金町の方向性かなという風にも思っています。周辺の文化関係者の皆さんとお話する機会が増えたのですが、なぜ黄金町だけ市の補助金が入っているのかという意見が結構多かった。だから、我々の活動自体が他の地域でも有効性を持たなければいけないという感じを持ちました。そのため、今後もこの方向性をもう少し考えていきたいと思っています。</p>
<p>細淵氏</p>	<p>○BankART1929 の一番大きな出来事はやはり池田代表が急逝したことです。創造都市政策に最初から関わっていただけで、池田が残したものの、やってきたこと、考えていたことを、次に代表になった私だけでなく、創造都市に関わる皆さんと共にもう一度検証していけたらと思っています。令和3年度ですが、前半はまだコロナの影響もありましたので、制作の場所としての空間使用に切り替え、通常1期おこなっていたスタジオ事業を2期行いました。中盤から後半にかけては、主催事業、コーディネート事業共に今までコロナ禍でできなかったこと、1年前、2年前に企画していたものを実現させることができました。オファーも多く、コーディネート事業の稼働率や収入もかなりありました。収入面でいいますと、カフェ、パブが運営できないことによるコロナの補償金もありました。最後に開催した「都市デザイン横浜展」は、池田が直接関わった最後の展覧会になりますが、こちらが好評を博したということで、元々年度末までだった企画が、もう1か月、4月末まで延長し、かなりたくさんの方にご来場いただきました。次は創造都市20周年という形で同じように、広く市民に知っていただくような機会をつくりたいというのが、池田が最後に言っていたことですので、それを実現していけたらと思っています。</p>
<p>岡田氏</p>	<p>○象の鼻テラスもコロナの影響が非常に甚大で、いつか戻るだろうと思って既に3年経っておりますけれども、やはり戻らないのではないかと、活動のテーマを、巷ではニューノーマルと言われておりますが、我々はネクストノーマルと、もうかつての日常が戻らないことを前提に、今年度から各種事業や運営体制について見直しています。今年度に入ってようやくご来場の方々の数が平時に戻りつつありますが、施設としてはできることを万全でやるわけですけれども、経</p>

済的な負荷やスタッフの負荷、必要なスペースがより求められるような状況でもあるので、いろいろ試行錯誤しながら取り組んでいるところです。あと、スローレーベルの活動に私どもが事務局という形で関わり、毎年継続して取組をしています。昨年度はパラリンピックがあり、その開閉幕式をスローレーベルのディレクターの栗栖が務めたことで、レガシーを横浜に定着させるための取組をやっていかなければいけないと、いろいろな方々にご相談しながら準備を進めているところです。来年は創造都市の取組が20周年を迎えるということがあります。これまでは各拠点が独立独歩で旺盛に活動してきまして、基本的にはそれでいいのだと思っていますが、昨今、創造界限拠点がある理由とか、活動について市民と乖離しているのではないかと、いろいろなお声がある中で、拠点同士がさらに連携を強化した活動・取組を市民に伝えたり、市政の中で効果があったということをきちんとPRしたり、やらなければいけないことがすごくたくさんあるなというところです。今一度、取組が始まったところに立ち戻りながら、皆さんと議論を重ねて、意味のある取組にしていく努力をしていきたいと思っております。

矢野氏

○THE BAYS は昨年引き続きイベントを増やしたり、1階に入っているカフェやグッズショップで新しいメニューや新作商品をかかなりのスピードでつくったり、デリバリーサービス、EC サイトなど、直接足を運んでいただかなくても利用していただけるような取組を充実して実施できたかなと思っております。その中でも、大きく2つ力を入れたところがありました。1つは、ファンと市民と球団職員が一緒にオープンミーティングを実施して、どうやったらベイスターズのチームや横浜の街をよくできるかを議論し、それを私たちで実現していくということをやりました。例えば、廃棄されてしまっている選手の使ったバットを、ファンならではの視点で花瓶としてリニューアルし、実際に販売したところ、即日完売となったという事例があります。それ以外にも、観光ツアーを作り、野球観戦の前に横浜の街に足を運んでいただいたり、ビジターで遠くから来るファンの方には試合前に横浜の街を回遊してもらえようような仕組みをつくったり、そういった意味では、我々がTHE BAYSを運営している価値みたいなものを少しは作り出せたのかなと思っております。2つ目としては、関内の街ににぎわいを広げていくとか、各ステークホルダーの皆さんとのつながりを広げていくというような評価軸がある一方で、ビジネスとして成り立たせていくために、ビジネススクールとか、子供向けのアカデミーということでいろいろな人を集めて、さらに収入源を安定させるプログラムを作り出せました。これが作り出せたことによって、より新しい挑戦もできるだろうというところはあるので、昨年の取組を基に、来年はそれをどんどん発展させていくことをやっていけたらと思

	野原委員長	<p>っています。</p> <p>○次に、事務局から振り返りの説明をお願いしたいと思います。</p> <p><事務局より説明が行われた。></p>
	野原委員長 遠藤委員	<p>○御意見や御質問等がございましたら、お願いしたいと思います。</p> <p>○一つ、見える化という話が全体に共通してあったと思います。どう評価していくかということは、結構ちゃんと考えなくてはいけないと思います。見える化をしていくにも拠点の作業が伴います。政策としての評価と、アーカイブの話とか、実績をどう評価するのかという話があると思いますが、見える化したことがその拠点のアーティストに何かうまく還元されていくとか、次の創作活動につながっていくとか、拠点のための見える化みたいな視点も同時に大事ではないかと感じました。今は興味のないことを見なくていい世の中になっていて、情報を発信すればするほど興味のある人に対してしか伝わらないと思います。だから、見える化という作業を何のためにやるのかということ、もうちょっと丁寧に考えていく必要があって、政策として市民にどう評価してもらおうかということは当然やらなければいけません、それと同時に、各拠点の活動を見える化することでどう活性化していくのか、どう次につながっていくのか、もしくはそれを2本立てでやるか、そういう視点がちゃんと議論されてもいいのかなと感じました。</p>
	事務局	<p>○市の立場だと政策としてというのはありますが、そこも課題があると感じています。拠点としては、やはり負担がかかるものですし、評価軸のこととリンクするかと思いますがまだ詰められていないので、今年度しっかり時間をかけて、この拠点のどの部分について見える化をしていこうという検討が必要かなと思ったところです。総論でひとまとめに語ってしまっているなという印象はあります。</p>
	恵良氏	<p>○20 年を機に創造都市、拠点含めて、全体の志とかパワーのような、もう一回エネルギーを注入する必要があるのではないかと思います。それと各論的ですが、20 年の間で、特にここ数年が顕著ですけども、各拠点の持っているポテンシャルとか意味というのがかなり変わってきているように思えます。それは、個々のアートが複合してくる流れもあるし、市庁舎移転によって地域の力のバランスも変わってきて、新旧都心が一体化するということもあるかもしれません。だから、拠点のポテンシャルとか意味をもう一回捉え直す必要もあるかもしれない。それからもう一つ、連携ですが、拠点間の連携とは別に、最近、芸術アクション事業等の文化観光局の施策との関係で各拠点にご協力いただくケースが増えているように思います。情報の発信とか価値観の共有とか、ある程度前広に情報共有したりしながら進めない</p>

		<p>大変だと思いますので、考えなければいけない。最後に3点目は、成果の行方はどこに向かっているのかという意識がないと、成果のまとめ方も伝え方も分かりやすくなるかどうか分かりません。国際的なところ、郊外、アーティストそのもの、いろいろあるので、その辺の整理が必要ではないかと思っています。</p> <p>事務局 ○市としても、次期中期計画等の議論、もう少し長期的なビジョンも含めて、すべての施策を改めて見直す作業を全庁的に進めている状況です。そうした大きな流れの中で、我々としてもきちんと議論していく必要があると思っています。まだ具体的な進め方自体を話し合っているところではありますが、皆様となるべくオープンに議論するような場を設けていければと思っています。</p> <p>菅野委員 ○見える化や評価の目標が何に向かっているのかというところが重要で、横浜市として次の新たなビジョンをどう据えるかが分からないと、多分いろいろな目的や基本方針、あるいは各拠点の役割というところの次のビジョンがつかれない状況だと思います。見通しとしてはいつぐらいに見えてくるのか教えていただきたいです。</p> <p>事務局 ○まず、次期中期計画、上位計画に当たるものを今年度いっぱいかけて策定していく全庁的な流れがあります。今は骨子を公表しており、今後、市民意見募集を踏まえて内容を固めていきます。創造都市施策についても次期中期計画の流れの中に組み込む作業をしながら、より具体的な方向性についても、同じようなスケジュール感で進めていく必要があると思っています。まだ、具体的な時期を申し上げられる段階ではないのですが、おおむねそのようなスケジュールとなっています。</p> <p>六川委員 ○20周年を節目に今後の方向性を見いだしていただきたいと思います。20年経って、今までの蓄積は大変なものがあると思います。これをベースに、さらにステップアップするような動きをしていく、また、各拠点とのリンケージをもっとしっかりして、委員会でも過去に出ていた各拠点の情報交換をもっと積極的にしたらどうかとか、そういうものを具体的に進めていっていただきたいと思います。また、個別の話ですが、THE BAYSについて質問があります。15年の定借の中で経営的なことも考えながらよくやられていると思いますが、横浜スポーツタウン構想がある中、関内・関外のまちづくりの取組をどのように考えられているのかということと、具体的に何か方策を考えられているかということ伺います。</p> <p>矢野氏 ○再開発事業者とDeNAのグループがクリエイティブスポーツラボの会員としてブースを利用させていただいており、そこで日々コミュニケーションを取らせていただいています。試験的なイベントを、まずはTHE BAYSで実施したり、市庁舎街区に入れる前にどういうことができるかみたいところは、これまでも一緒にやらせていただいています。</p>
--	--	---

	六川委員	<p>す。THE BAYS とベ이스ターズ、関わり方の視点のすみ分けが社内できていないところもありますので、具体的にお答えできることはないのですが、全く別でということではないと思っています。</p> <p>○関内に、ベ이스ターズ通りという通りがあります。例えば、その通りの活性化にもっと THE BAYS が参画していくような取り組み方とか、いろいろ戦術的なことはあると思います。これから見直しをしていくというお話もありましたので、THE BAYS としてもっと積極的に出ていくというスタンスでやっていただくと、街は歓迎していると思いますので、よろしくお願いします。</p>
	日沼委員	<p>○創造都市の大きな目標、これからの継続ということで、私なりにこの創造都市の成果というか、これを取り巻く人たちはどんな人たちなのかと改めて考えてみました。まずはアーティストやデザイナーというつくり手の方たちと、その方たちを支える現場の方たち、受け取るコミュニティという、3者によってつくられているのかなと考えた中で、先ほどのスクールの問題です。いろいろな講座をそれぞれやっているということで、地域の人たちやアートコミュニティの人たちを育てていくこととか、ものづくりを楽しむ人と、それを職業としてやっていく人が混在しているスクール問題と、もう一つは運営を支える人たちというところの問題が2つ重要なことかと思われました。2019年の「美術手帖」の美術教育特集でのアートスクール講座ガイドの中に、アートをキャリアに生かしたい、創造性をビジネスにしながらキャリアに生かしたいという分類の中でBankART School と黄金町芸術学校が紹介されていました。市民の創造というよりはキャリア形成というふうに見られているという、客観的な記事があったので、そういう目で、誰に対して働きかけていくものかを戦略的に考えると、どういうコミュニティを育てていきたいのかとか、どういうコミュニティとのパートナーシップをつくりたいのかということも一つ見えてくるのかなと思われました。それから、運営体制についてもそれぞれの拠点で本当にご尽力されておられると思います。来年の1月に初めて日本でのアートジョブフェアという人材マッチングのフェアが開催される予定で、そこでアートの社会的価値を高める、特に人が支えていく現場ということを社会に発信していく意味でのジョブフェアが開かれます。アートの現場は、言葉を選ばずに言うと、1人ずつの献身によって支えられているというか、きつい大変で、働き方として非常に大きな問題があると見られています。若い人たちが、自分たちのビジネスとしてアートの現場に取り組んでいく時に、支え手になっていく人たちが何を考えて、例えば創造拠点に対して自分のフィールドとして何を考えているかということは、継続性を考えていくときにすごく大事なことだと思います。ただ、事業評価のみならず、運営のあり方をどのように支えていくかを、市が注力して検討していただきたいなと改め</p>

野原委員長

て考えました。

○私からもいくつかコメントします。1点目は、コロナ禍で、特に舞台芸術系の分野はかなり厳しいというかご苦労されている中で、まさに献身的な活動で何とか支えていただいているところもあるのかなと思います。令和4年度は比較的、人は戻ってはいるとはいえ、まだまだ注意を払ってやっていかなければいけないところがたくさんあると思います。市のほうでも、サポート体制は継続的に検討いただいて、各拠点の負担が少しでも減って、皆さんがよりよい活動をできるような知恵を絞っていただくとよいと思っています。2点目に、指標や見える化をどう考えるか、というのをぜひ検討していただきたいのですが、とにかく評価のための評価、つまり指標を設定することが目的になりがちなので、何のために評価しているのかというものがないと、単にKPIを設定するだけでは、政策の効果として現れたり、因果関係が見いだせない数値もある中で、有効な見える化にならないのかなという気がしました。誰のための評価なのかもありますかね。どういうターゲットに向かって見える化を考えているのか。ユーザー向けもありますし、運営者自身が次のステップに向かうための見える化みたいなものもあると思うので、外出ししてでもしっかり検討して、うまく還元できる仕組みができたらいいなと思います。3点目、拠点同士の連携の話もたくさん出ていましたし、庁内での関係者連携をぜひやっていただきたいと思います。ACYと、例えば拠点との関わりのあり方で何ができるかみたいなことも、もともと関わっておられる方もたくさんおられますが、何かそういった話で広がっていくものもあるかなとか、そういう、いろいろなつながり方ができそうな気がすると思っております、そのあたりがまだ生かしていない気もしているので、ぜひそのあたりを検討いただきたいと思います。

先ほどから20周年という言葉が出ていますが、2024年を一つのメルクマールとしたときに、後追いでいろいろなプロジェクト、先ほどの見える化もそうですし、そういったものがどうできるかみたいなところを今から考えないと、2024年に20周年としてお示しできないなという気がします。そのあたりも含めて、全体をフレームアウトして、ご検討いただきたいと思います。

○では、質問、意見がなければ、審議事項(1)については了承でよろしいか。

(了承)

<拠点ディレクター退室>

1 審議事項(2): 旧第一銀行横浜支店の公募結果について
<事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。>

	<p>遠藤委員</p> <p>菅野委員</p> <p>事務局</p>	<p>2 その他</p> <p>○昔から連携のことをずっと議論しているのですが、多分、拠点の人から見ると外に出ていくという話がたくさんあって、その外に出ていくという話が一つは連携という話につながっていると思います。個々の拠点がどうつながっていくかという連携だけではなくて、拠点から見ると、自分たちが地域とどのように連携していくのかという話とか、市とどのように連携して何をやっていくかということも含めた話が恐らく必要になっていくはずですよ。黄金町のマスタープランを作るという話も、外に出ていくということが一つ、どんな出方があるのだろうかという議論の中でまだ見えていない部分はありますが、外に出るといって話がいっつかの拠点から出ていたし、今日のさっきの事業者の提案の中にも、外に出ていくというような提案があったと。よくよく考えてみると、そこの部分は創造都市の枠組みの中できちんとした考え方がないような気がします。外に出ていくための仕組みとか体制とか視点とか、その辺は多分、創造都市の考え方の中に、界限という言葉の中でほんわりはあるけれども、具体的にはないような気がずっとしていました。でも、そこが大分求められているような気がしていて、分科会の中でもそれに近いような話があったのでご報告です。</p> <p>○1点だけ。政策とかこれからのビジョンを考えるときに、これまでターゲットとか対象とを考えていましたが、言葉の言い方としてステークホルダーという、より関係性というか、利害関係というか、それをどのように設定していくかによって対象が変わってくると思います。日沼さんがおっしゃっていましたが、それはアーティストなのか、それを運営する側なのか、いろいろな制作に関わる人がいるので、そういう考え方を取り入れて、施策形成と評価というところを、より明確にしていったほうがいいのではないかと思います。</p> <p>情報提供</p> <p><事務局から、情報提供が行われた。></p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について、事務連絡が行われた。></p> <p>○これをもって、令和4年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>		<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和4年3月18日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和3年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 旧第一銀行横浜支店の公募結果について</p>
<p>特記事項</p>		

令和4年度 事業評価シート

資料 3

【基本情報】

拠点名称	文化芸術創造発信拠点（BankART1929）	基本方針	(1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築 (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立 (4) 創造限界クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり
運営期間	平成30年度～令和6年度（5年目／7年間）		
運営団体	特定非営利活動法人 BankART1929		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	全体収支は、まだ事業終了していないので見込みであるが、1.2億円と例年並み。 収入のうちの横浜市補助金の割合は55%程度。 横浜市補助金以外で大きなものは、他の補助金、助成金関係(文化庁AFF600万、芸文200万、みなとみらい21トラスト350万)。ついでコーディネート事業収入(650万程度)。	Station、KAIKO2館の体制では、これまでコロナ禍の影響が大きくまともな活動ができておらず、今期は経済状況の読みに苦労した。 市補助金以外の補助金、助成金が複数取れたことと、横浜市文化観光局の他課の委託事業(東アジア文化都市、ヨルノヨ)や、周辺企業との連携、横浜文化賞の賞金など、予定外の事業や収入にも助けられた。 コーディネート事業収入は今期はあまり伸ばすことができなかった。	経済的な自立化を念頭に置いて事業を展開していく必要があり、作品の販売等も含めた取組を新たに開始したことは非常に重要なことで、評価できる。 課題は、BankARTらしさや横浜らしさ、なぜここでやるのかなど、「創造都市横浜」とダイレクトにつながるコンセプトの構築。
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
	3 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率			
2 施設の維持管理状況	1 施設の管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ●BankART KAIKO <ul style="list-style-type: none"> ・シェアオフィスの面積縮小＝倉庫スペース、展示面積の拡大 ・周囲の音問題＝遮音の壁を仮設置 ●BankART Station <ul style="list-style-type: none"> ・雨漏り＝工事完了 ・手前空調の不具合(冬場に効かなくなる＝室外機室の高温化にともなうもの) ・エントランス周辺のしつらえについて(寒さ、暑さの対策と、入りやすさの兼ね合い) ・Wi-Fi工事、水道工事が課題。 ●安全対策、その他(両館共通) <ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの設置 施設内外での活動をカバーできる損害賠償保険への加入 	<ul style="list-style-type: none"> ●BankART KAIKO <ul style="list-style-type: none"> シェアオフィスの面積を縮小することで、定期収入が減少するため、全体に経済をもつとがなければならない。今期はどうかクリア。 周囲の音問題で、遮音のための壁を仮設置したが、今後どうするか課題。入り口側のBGMは、KAIKO自体のメインエントランスを変えるなどの可能性を検討中。 ●BankART Station <ul style="list-style-type: none"> 雨漏りは横浜高速鉄道手配の工事でほぼなくなったが、まとまった雨が降ると、展示室内の雨樋から床の側溝に落ちる雨の音が響く。 エントランス周辺のしつらえについて、現在視認性や入りやすさを重視して入口を大きく開けているが、特に冬場は寒さを凌ぐのが難しい。エアーカーテンなども試してみたが効果はあまりなし。当面は冬場は扉を閉めて、ソフトで対応するしかなさそう。 Wi-Fiが脆弱なのを改善したいが、駅構内である関係で根本解決は難しい(光回線を引くのに600万)。また、水場が奥まった場所にあるためカフェの運営が難しく、手前に出張して営業しているため、提供物が限られている。水場の工事も光回線同様、駅構内であるために高額で難しい。 上記を、なにがしかの国の補助金でクリアできないかと考えているが、日々の事業運営もあるため、実施には至っていない。 	
	2 施設の修繕・改善状況			
	3 安全対策			
	4 その他			
	・BankART Station（隣接する道路区域を含む） ・BankART KAIKO ・その他			
3 運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇	代表、副代表、プロジェクトマネージャー、アルバイトスタッフ10名(主にアーティスト系。受付、作品制作補助、施工など) 外部スタッフ:写真、デザイン、ウェブ、税務、労務	池田亡き後、常勤のスタッフ体制を強化した。ただし、皆これまでの仕事を並行している部分もあるため、フレックス的な働き方をしている部分もある。 施設の受付のような日常業務はアルバイトスタッフの自覚的な振る舞いによって保たれている。またそれらを管理するシステムも日々アップデートしている。 外部スタッフは長くBankARTと一緒に活動しているため、阿吽の呼吸で仕事を進めてくれるため、助かっている。 市民スタッフのような位置付けの、必要な作業を必要な時に手伝ってもらえるような仕組みを組み上げたいと話題があがったがまだ実現していないので、今後の課題である。	代表交代という体制変化に伴い、運営に関わる理念やあり方も変化する時機にきている。 クリエイティビティを維持・向上させるため、各スタッフが持つネットワークを活用する方向で運営体制を強化したことは評価できる。 現時点では、これまでもBankARTに関わってきた思いのあるスタッフの力を感ずるが、新たなスタッフも含め、将来的なモチベーションの源泉をどうやってつづけていくかが課題。
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
4 広報・発信	1 先駆的な創造活動の国内外に向けた発信強化	メールニュース配信 2万アドレス Instagram、Facebook、TwitterなどのSNSでの発信の強化 新たなウェブの広報媒体のリサーチと情報提供	メールニュースは相変わらず、来館者や名刺交換をした人々に安定的に情報配信をしている。 加えて、Instagram、Facebook、TwitterなどのSNSでの発信を強化することにより、こまめな情報発信をすることができた。そのかわり、通常のウェブサイトへのアクセスは少なくなっているようだ。また、ブログを更新することができていない。 コロナ禍を経て、各館のチラシやポスターの開架状況にも変化があり、月刊雑誌が季刊になるなど既存の情報メディアにも変化が現れている。情報の流れ方があきらかに変わっているのがわかる。今後も、必要な情報を必要な人に届けるにはどうすればいいかを引き続き模索していく必要がある。	年代によっても利用する広報媒体は異なるため、企画ごとにターゲットを考えた上で広報展開をしていかないと届けたい層に届かない。現在、BankARTは紙媒体からデジタルへ移行している段階で過渡期にあると感じる。 SNSの有用性はますます高まると予想されるが、メリハリをつけたメディアミックス・広報戦略を考えていく必要がある。
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	4 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

II創造性／政策達成評価				仮評価		
評価軸		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果		
				自己評価	委員会評価	
1	地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<input type="checkbox"/> スタジオ事業 20組、2ヶ月間の開催 <input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業 開発好明氏が台北THAVに、呉庭鳳(ウー・ティンフェン)氏がBankART Stationにて活動。それぞれ3ヶ月滞在、最後に成果発表展の開催。	<p>コロナ禍の影響を受けず、通常のスタジオ事業、台北交流事業ともに開催できた。特に、台北交流は2年ぶりの交換AIRとなった。</p> <p>みなとみらい地区では、トラストの助成をうけて開催した「キング軸・アートテーブル」が、よい形で実現できたと思う。実際に近隣企業、組織と具体的な連携を組むことができた。またそこから派生し、次の連携事業へとも発展してきている。来年度以降も継続して、関係構築、事業協働をおこなってきたい。</p> <p>一方、「インディーズ2022」の18区展開は、今期はリサーチのみとなった。長期計画として捉え直し、新たに進行させたい。今期は主に神奈川区、ポートサイド地区+市場へのリサーチをおこなった。来年度の事業実現に向けて働きかけているところである。</p> <p>スクールや、新たに始めたPop-up Storeなど、多様な人々が多様な形で参加できるプログラムを増やしてきている。</p> <p>他の創造界隈拠点とは定期的に意見交換しており、今後もトリエンナーレなどの時期にあわせて協働プログラムを行っていく予定である。</p>	
		2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<input type="checkbox"/> みなとみらい21地区全域にまたがるプログラム(提案中) <input type="checkbox"/> インディーズ2022(18区展開) <input type="checkbox"/> スクール事業 <input type="checkbox"/> みなとみらい物語(周辺企業等を講師に招聘) <input type="checkbox"/> カフェ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> カフェ:親しみのある空間構築 <input type="checkbox"/> ショップ:通販システムの検討		<input type="checkbox"/> みなどみらい21地区全域にまたがるプログラム キング軸・アートテーブル(公募審査展、3期にわたる公開、期間中のゲートタワーでの展示)みなとみらい21トラスト事業 <input type="checkbox"/> インディーズ2022(18区展開) リサーチのみ。主に神奈川区。 <input type="checkbox"/> スクール事業 <input type="checkbox"/> カフェ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> カフェ:親しみのある空間構築 レイアウト変更、新規家具の導入、メニューの更新 <input type="checkbox"/> ショップ:通販システムの検討 ウェブショップ展開。多様な決済システムの導入。 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 「BankART Studio Theater」および「BankART KAIKO Pop-up Store」の開催(周辺アーティスト、クリエイター、企業との共同)
		3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<input type="checkbox"/> 主催企画展 <input type="checkbox"/> 鷲見和紀郎氏、北島敬三氏、安土修三氏等の企画展の開催 <input type="checkbox"/> UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> コーディネート事業 <input type="checkbox"/> YPAM、卒展、企業展など <input type="checkbox"/> スクール事業 <input type="checkbox"/> 年間25講座開催 <input type="checkbox"/> アーカイブ公開の本格的な推進 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 <input type="checkbox"/> 各企画展のカタログ発行 <input type="checkbox"/> オリジナルコンテンツ書籍発行		
2	他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 台北市との芸術家相互派遣プログラム <input type="checkbox"/> 台北との交換AIRの実施 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> BankART妻有のオープン(越後妻有大地の芸術祭) <input type="checkbox"/> 大地のコレクション展への協力(越後妻有大地の芸術祭) <input type="checkbox"/> 韓国光州「ピッコウ展」への作品供出/東アジア文化都市 <input type="checkbox"/> 韓国釜山「Young Artist Art Fair」へ作家推薦/釜山文化財団 <input type="checkbox"/> 「3331 Art Fair」への作家推薦 /3331 Arts Chiyoda <input type="checkbox"/> 視察受け入れ	<p>コロナ禍の影響の大きかったこの分野も、徐々に回復傾向がみられる。台北との交換AIRが2年ぶりに再開したことは特に喜ばしい。</p> <p>海外や他都市との関係のコーディネート事業や視察も少しずつ増えてきた。コロナ禍を経て、新しい地方プログラムも増えてきており、新たなネットワークの形成も期待できると思われる。</p>	
		1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 <input type="checkbox"/> UNDER35 作家のカタログ制作サポート <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> キング軸・アートテーブルの開催 <input type="checkbox"/> BankART KAIKO Pop-up Storeの開催 <input type="checkbox"/> BankART Station Theatreの開催	<p>Under35、スタジオ事業などの定番事業に加え、みなとみらい周辺での取り組み「キング軸アートテーブル」や、「BankART KAIKO Pop-up Store」「BankART Station Theatre」などの新たな事業展開で、新しい形態で多様なクリエイター、アーティストを紹介できる機会をもうけることができた。</p>		
3	創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 <input type="checkbox"/> UNDER35 作家のカタログ制作サポート <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> AIR参加アーティストの周辺への誘致 <input type="checkbox"/> ショップの通販システムの検討	<p>Stationの立地も多く多くの企業が入ってきており、ビジネスとして考えるとそちらでもPop-up Storeを展開して良いのではないかと。</p> <p>先進的なものをどんどん出して、ほかとは違うことをやっているから、面白いから見に行こうというほうがむしろいい。</p>

総評	<p>新しい体制の中で、元に戻る発想ではなく、次の時代を見据えた発想で事業を検討し取り組んでいることは評価できる。この2年間でBankARTのポジションとキーコンセプトを見極め、BankARTらしい創造活動をもう一回作り上げてほしい。</p> <p>これからの時代にあわせてどのような視点で活動していくのか。取捨選択をしっかりと柱を立てた上でさらに横の連携も図って行って、どのようにポジショニングを再構築していくか。未来志向で新機軸を打ち出してほしい。</p>	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <p>創造都市施策の背景の中で、都心部活性化の一環としてキング軸も展開のフィールドにできるよう検討してほしい。</p> <p>補助金事業の中で販売収益事業をどう考えるかを、行政としても整理してほしい。</p>
----	--	--

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができています。 道路の使い方や企業とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。 BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。 みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。 コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> 分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。 stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。 客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。 リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> 新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。 Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。 工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	急な坂スタジオ	基本方針	①アーティストが作品を「つくる」支援と、その体制を「ととのえる」支援【サポートアーティスト制度の拡充】 ②次代を担う人材(アーティスト・観客双方)が出逢う場所【学びと交流を目的とした事業展開】 ③誰もが安心して使える稽古場【状況に応じて柔軟な利用を可能にすると同時に安定した稽古場経営の徹底】 ④新しいディレクターの育成【アーティストを支える人材の世代交代による、10年先を見通す新体制の確立】
運営期間	令和4年度～令和9年度(1年目／5年間)		
運営団体	特定非営利活動法人アートプラットフォーム		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価			実施結果	仮評価	
評価軸				自己評価	委員会評価
1	経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	2021年度から中止・延期公演のための稽古が多く、感染症対策や美術作業のために複数のスタジオ利用等の希望に柔軟に対応した	少しづつ利用は戻りつつあるが、完全な回復には時間がかかるだろう。管理コストの見直しを図り、削減できるところは削減したものの、これ以上は難しい状況になっている。事業実施のために助成金を取得し、なるべく若い世代にゆとりのある創作・発表機会を提供できるように努めた。	クラスター等の感染発生を起こすことなく、施設のメンテナンスを進めてネット環境の向上を予定するなど、施設の運営・管理について細かな対応と工夫がみられ、よくやっている。助成金獲得など外部資金の導入も評価。
		2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等/その内訳と比率)	急な坂ショーケース実施のためにAFF2の助成を得た		
		3 施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの)に対する年間利用料金収入の割合	年間60万円ほど安くなる試算から、空調の契約を変更		
2	施設の運営・管理	1 施設の利用状況(部屋別稼働率・延べ来館者数及び利用団体数)	12月末時点で、60パーセント程度の稼働率	稽古期間中の関係者の感染やクラスターは起きていない。共有スペースでの注意事項も遵守してもらっている。建物自体の老朽化は進んでいるが、館内の日々のメンテナンスをしっかりとすることで、綺麗に保っている。来年度は館内のネット環境の新しい整備を実施予定。	ディレクターの交代を見据えた次年度以降の体制(常勤・非常勤等)について、早期に方向性を示していただきたい。
		2 施設の管理状況	消毒の徹底、共有スペースのレイアウトなどい注意を払っている		
		3 施設の修繕・改善状況	日々のメンテナンス(テープの張り替え)を徹底LED化を進めている		
		4 安全対策・危機管理体制	防災訓練の実施(野毛山荘と共同)、緊急放送設備(緊急警報含む)のマニュアル化および使い方レクチャーをスタッフ全員に行った		
3	運営体制・労務管理	1 常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制	ディレクター1名、非常勤2名(週2、3日):工事・問い合わせ対応	利用状況に応じて、早めの閉館や臨時休館など、柔軟に対応している。(アルバイト代は支給)急な体調不良や、家族の感染などがあつた際には休める体制を組んでいる。	大手メディアへの寄稿は、15年間の稽古場としての活動とディレクター交代について広く知ってもらい良い機会となり有意義だった。創造都市横浜のインタビューと併せてよい広報となった。アーカイブについても多くの人に有効な資産となるよう、引き続き進めていただきたい。
		2 年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)	稽古場の提供、オンラインミーティングのための会場提供		
		3 スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況			
4	広報・情報発信	1 各事業の効果的な広報活動・情報発信(利用者・市民に向けたものを含む)	舞台芸術だけでなく、子供向けイベントの情報サイトへの発信を実施(急な坂アトリエ)創造都市横浜(ディレクターインタビュー)、朝日新聞「感歎劇団」への寄稿	創造都市横浜のインタビューの中ではコーディネーターとインタビュアーを急な坂スタジオの立ち上げスタッフが担った。これまでを知る人との共同作業で良い記事になった。稽古場という施設そのものが記事になることが少ない中、朝日新聞に寄稿する機会を得たことはとても大きな意味があつた。	大手メディアへの寄稿は、15年間の稽古場としての活動とディレクター交代について広く知ってもらい良い機会となり有意義だった。創造都市横浜のインタビューと併せてよい広報となった。アーカイブについても多くの人に有効な資産となるよう、引き続き進めていただきたい。
		2 市の施策に協力した創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信	来年度以降の更新予定で、アーカイブ作成の準備に取り組んでいる		
		3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価				委員会評価	
1	舞台芸術を中心とした創造活動の場	1	<p>創作の場の提供 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか</p>	<p>状況に応じた稼働率の設定・達成</p> <p>新規広報媒体の検討</p> <p>ハラスメント対策への取り組み</p>	<p>昨年度よりは改善が見られるが、時期によって稼働率の差が大きい 来年度の動きが鈍く、新しい貸し方を検討する必要があると感じている</p> <p>利用者向けクーポンの発行</p> <p>ナイブな側面も含むので、より良い対策に関して検討を重ねている</p>	<p>2020、21年度に中止・延期になった公演やAFFの助成を得た公演なども多く、ホールの稼働率は高かったものの、年度末はかなり空きがあり、ここから数年は様々な使用形態に対応していくべきだと考えている。ハラスメントもどうしたら効果的な対策になるかをより慎重に検討すべきだと思う。</p> <p>トークや野外での回遊式作品、全館を使用しているショーケースなど、多岐に渡るプロデュースを行うことができた。積極的に若い世代や、これまで急な坂スタジオとは関わりのなかったアーティストにも広く参加してもらえる良い機会になつと感じている。11月に再演した「となり街の知らない踊り子」は主催が東京芸術劇場ということもあり、スタッフ手配や事前の打合せへの参加は行ったが、現場制作はより若い世代にバトンタッチすることが出来た。プロデュース作品の新しい展開の一つになったと感じている。</p>
		2	<p>創造活動への支援 快適な創作活動を行うために必要なサポートを行うことで、アーティスト達が育ち・続けていくための創造環境が整備されているか</p>	<p>サポートアーティスト</p> <p>急な坂プロデュース</p> <p>新規(若手)利用団体へのサポート</p> <p>人材育成プログラム(急な坂アトリエ、相談室plus)</p> <p>サイトを活用した取組(劇評連載、アーカイブ)</p>	<p>これまでのアーティストの卒業発表、根本しゅん平をホストとしたトークイベント、同様フォーマットで年度末に小尻健太で開催予定</p> <p>ヨルノヨ関連企画「ライト・ストーリーズ」「急な坂ショーケース」</p> <p>スタジオ4での楽器使用の可能性を検討するために若手団体に防音シートを貼った状態での貸出を実施</p> <p>急な坂アトリエ(対象:白昼夢)</p> <p>Aokidのコラム掲載開始、ショーケースの劇評掲載予定</p>	
2	舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1	<p>アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか</p>	<p>ワークショップなど市民に開かれた取組</p> <p>様々な人材が集まり、学び、交流する場として機能しているか</p> <p>新たなディレクターを選考・育成し、次世代への継承を図れているか</p>	<p>学校プログラム、「ライト・ストーリーズ」</p> <p>インターンシップ、職業体験の受け入れ</p> <p>公募を実施、選考に時間を要したため、育成はこれから</p>	<p>インターンシップがオンラインから対面になり、老松中学校の職業体験が再開した。また、複数の学生からインターンシップに関する問い合わせがあり、夏季に1名、年度末に1名受け入れる。館内でのイベントを行うことで、様々な人が訪れた。</p> <p>ディレクター候補者が1名決まり、新ディレクター体制への移行について一定の目途が立ったことは評価できる。次年度の育成について具体的なイメージを示していただきたい。</p>

総評	<p>稽古場運営を着実に進めていく、急な坂プロデュースやショーケースなどの企画を変わらず進めてきているのは評価できる。 ディレクター交代のことは、いい意味で注目されている。よき方向にいくように応援している。</p>	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <p>アーティストの活動拠点が都内に集中する現状で、横浜にこうした活動の場があることは非常に重要と感じるので、是非継続を願いたい。</p>
----	---	---

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、オンライン等も活用しつつ、小学校へのアーティスト派遣を無事に行えたことは評価できる。 ・レジデンスアーティスト、サポートアーティストが令和3年度で一旦全員卒業となったが、メンターとして寄り添いながら信頼関係を築いてきた点が評価できる。
	R2	<p>新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中につながっていると感じる。</p>
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができていた点が評価できる。 ・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業を含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができています。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。 ・相談室plusや新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。 ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	初黄・日ノ出町文化芸術拠点	基本方針	◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う ①文化芸術の力で新しい価値観を産み出し、地区の活性化 ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営 ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する
運営期間	令和4年度		
運営団体	黄金町エリアマネジメントセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価			実施結果	仮評価	
評価軸				自己評価	委員会評価
1	全体事業収支	1 全体事業収支	[経常収益計] 79,428,697円 [経常費用計] 54,574,538円 [12月末時点収支差額] 24,854,159円	スタジオ・レジデンス施設の稼働率が非常に高く、家賃収入の増につながった。現時点での収支差額が大きくなっているが、今後、施設改修工事等で支出の増が見込まれる。年度後半に事業が集中したため、より計画的な執行が課題となっている。	事業収入増に向け、提携先を確保し新規事業を立ち上げる想定をしているが、一方で従前の業務量を圧縮する取組をしたところであり、団体としての業務量やマンパワーのバランスが危惧される。
		2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
2	事業収入	1 黄金町バザール・企画展・イベント等収入(チケット収入等)	[企画展]いずれも入場料無料 [黄金町芸術学校受講料収益] 245,120円 [高架下スタジオ利用料(短期利用)] 1,124,607円 [その他物件家賃収益] 20,140,939円 [ギャラリー等作品販売収益] 2,727,901円 [視察料金] 57,500円	家賃収入の増が顕著であるが、借り上げ施設の減少傾向と相まって、展示等で活用できる施設が減っており、有料の企画展実施のための新たな会場確保が課題となっている。また、助成金、協賛金の確保も、安定した事業運営のための課題である。	収入を増やすと同時に支出を減らすということも赤字化を縮小する一つの手立てで、そちらのほうか先なのではないか。
		2 黄金町芸術学校(受講料)			
		3 高架下スタジオ利用料			
		4 その他物件家賃収入			
		5 ギャラリー等販売手数料			
		6 その他(助成金、協賛金等)			
3	施設の維持管理状況	1 施設の利用状況(管理施設数、稼働状況)	[施設の利用状況] 108戸 [施設の利用状況] 貸出施設/展示施設/自営店舗/事務処理用/入居者共用施設/倉庫利用/未整備/利用不可 [施設の改修状況] 改修工事にかかる標準仕様の作成 展示スペースの改修1件/交流スペースの改修1件/スタジオ兼レジデンススペースの改修2件	施設の老朽化が進んでおり、長期的な展望から、改修工事にあたっての標準的な仕様を整備した。この仕様にとり、現在、改修工事を実施中だが、昨今の工事コストの高騰により、計画通り工事を進めることが難しくなっている。	
		2 施設の管理状況			
		3 施設の修繕・改善状況			
		4 安全対策・危機管理体制			
4	運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇	[事務局スタッフの配置状況] 事務局長・事務局次長 各1名 総務経理 常勤1名非常勤2名 アートプロジェクト(AP) 常勤4名、委託2名、非常勤2名 エリアマネジメント 常勤2名(うち1名AP兼務)、委託1名 店舗等運営 非常勤6名(うち1名AP兼務)、委託1名	若いスタッフが多いため、仕事をしながら習熟を目指す形にならないが、それぞれの専門性を活かしながら、できるだけ情報を共有して進めるようにしている。	事務局のスタッフが新規雇用により拡充したところだが、業務量過多などの状況が改善されないと、数年後にはスタッフが疲弊しモチベーションが低下するなど、再度体制が弱体化するのではないか。
		2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
5	広報・発信	1 地域再生のモデル地区としての発信	黄金町まちづくりニュースの発行(9,12月)各3,500部(協議会事務局として) ※3月号を発行予定で準備中 事業ごとのポスター、チラシの作成、SNSでの発信 百貨店でのパネル展示、WS、作品展示(9~10月、12月) TV番組取材対応 ウェブサイトの全面リニューアル準備 YouTube動画の拡充 韓国、中国、イギリスなど、海外からの視察・ヒアリングが増えた	9~10月に百貨店で実施した展示の際に、黄金町のまちづくりを紹介するパネル展示を実施し、多くの人に活動を知ってもらうことができた。また、10月以降にテレビの取材が入り、アートによるまちづくりが紹介され、番組を見た方々からの反響も多かった。	
		2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
		3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
		4 事業のアーカイブの作成、発信(AIRアーティストのその後の活動状況の見える化を含む)			

II 創造性／政策達成評価				仮評価		
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価	
1 文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	アーティストへの滞在・制作・発表の場の提供 アーティスト支援の充実が図れているか 他のAIR事業との差別化が図れているか	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/勉強会実施/広報協力 <目標>入居者数(長期)60組(短期)20組、施設整備数8件	[長期レジデンスアーティスト数]延べ36組39名(内、海外5名) [短期レジデンスアーティスト数]延べ11組13名(内、海外10名) [施設整備数] 3件(今後5件予定) [アーティスト支援] アーティスト連絡会議/アーティストのための英会話講座/インボイス制度講座/工房整備および運営/個展の企画運営/ギャラリーやオンラインストアでの作品やグッズの販売協力	アーティストの滞在が復活したためあって、急速に滞在アーティスト数が回復し、施設としてはほぼフル稼働の状況が続いている。また後述するが、レジデンスアーティストを紹介する展示作品やグッズの販売等を通してアーティストに対するサポートを継続している。今後の課題は、レジデンス卒業生のその後の行き先を探ることが求められる。	各種の事業実施については、コロナが明けたと感じるほどに、活気のある事業展開の様子が確認できて大変良かった。 アーティスト・イン・レジデンスが動き出した。特に海外との交流では、人脈やネットワーク、アートのセンスの持ち方など、ディレクターの力は大きいと感じる。
	2	国際的なネットワークの強化	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/海外展示/東アジア文化都市交流/海外アトリエ紹介/海外向け情報発信 <目標>交流団体5団体	[交流団体]9団体 LUXERLAKES A4 Art Museum(中国・成都)/泉州市海外交通史博物館(中国・泉州)/Taipei Art Center Trade Union(台湾・台北)/Space Ppong(韓国・光州)/Drowing House(韓国・清州)/釜山文化財団(韓国・釜山)/Chiang Mai Art Conversation(タイ・チェンマイ)/Load na Dito(フィリピン・マニラ)/スペイン・バスク自治政府ビスカヤ県文化部(スペイン・バスク) [企画展示] ・黄金町国際AIRプログラム 2022 成果展「交流再来」 ※中国人アーティストは来日が叶わず、オンラインにて実施。 ※関連プログラムにて、フィリピンのキュレーター1名をインターンとして受け入れ ・東アジア文化都市交流事業 福建省泉州市の世界遺産登録記念展 [レジデンス交換プログラム] ・中国・成都 12月に約2週間派遣 ・韓国・光州 9月から約2ヶ月間派遣。現地にて滞在制作と展示を行う(東アジア文化都市交流) [その他] ・ドキュメント15報告会の開催 ・Drowing House(韓国・清州)による展覧会を黄金町で開催 ・釜山、清州、光州各都市のフォーラムに登壇 ・バスク地方からの派遣アーティストの受け入れ、展覧会開催。	国際交流事業も復活の兆しを見せている。文化庁助成による交流再来展は、中国の作家を除く4カ国のアーティストが来日参加、制作のプロセスや相互交流など、この数年間とまったく違うものになった。 東アジア文化都市、光州はリアルな相互交流を再開した。韓国は特に複数の都市が連携して私たちを招待し、各地で視察やフォーラムを行った。	
	3	年間を通じた賑わいづくり 日常的にアートに触れる機会の創出	展覧会・イベント 黄金町春のバザール(企画展示、商店会連携企画など)/黄金町夏休み子どもバザール(ワークショップ、発表展示)/黄金町秋のバザール(国際AIR、イベント等)/黄金町冬のバザール(企画展示、イベント等) <目標>年間6企画 <目標>来場者数10,000人	[主催企画] ・Self Introduction -新しい黄金町のアーティストを紹介します-展(レジデンスアーティスト)(21日間/383人) ・夏休み子どもバザール2022(子ども向けWSと展示)(28日間/317人、WS参加者85人) ・黄金町国際AIRプログラム 2022 成果展「交流再来」(14日間/1,259人) ・レイモンド・ホラチェック展「The Vicious Cycle of Virtue -美德の悪循環-」(14日間/365人) ・A Small, Good Thing -積み重ねることによって生まれること-(15日間/314人) ・黄金町×光州AIR交換プログラム2022 韓国・光州広域市レジデンス報告会(55人) ・はつこひアソビバ大作戦(横浜市立大学、神奈川大学との協働による子ども向けイベント)(60人) ・横浜草枕プロジェクトII(昨年の展覧会を振り返りつつ、未来へとつなげる展覧会)(9日間/157人) ※1月以降も企画展を数回実施予定	12月末時点での展示、イベント等への来場者数は6,648人。今年度は黄金町バザールを実施しなかったため、集客的には昨年より減っている。 今年度はサイトAギャラリーの活用が課題だったが、黄金町のアーティストの紹介、これまでの活動の振り返り、泉州市の紹介、また今後地方都市間とのネットワークづくりをテーマとした取り組みのスタートとしてFukuokaのアーティストを紹介する展示を計画した。 今年度初めての試みとして、教育関係者の協力を得て、夏休みイベントとして「夏休み子どもバザール」を開催、多くの参加者を得て、好評だった。	
	4	販路拡大	made in Koganecho 商店での作品展示/ミッションワーク/パブリックアート企画制作/ウィンドウギャラリー整備/オンラインショップ運営	[講座開催回数] 通常講座:4講座(計55回) 特別プログラム2回 [延べ参加人数] 通常講座:210名 特別プログラム19名 [講座例] 陶芸/編み物/美術講義	芸術学校は、講師による座学が長い間継続し、多くのファンを持っている。その他実技講座は人数制限をかけながら継続している。	
			[実施内容] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganecho、オンラインショップでのグッズ・作品販売 ・ウィンドウギャラリープロジェクト ・東戸塚の店舗での作品委託販売 ・モデルルームへの作品販売・納品 ・新築マンション・エントランスへアーティストによる作品提案、設置	TV等の露出もあってギャラリーの売上はそれなりに伸びてきている。一方で黄金町アートブックバザール(書店)の方は、新刊書、古書の売り上げが伸び悩み、前年度より売上が減少傾向にある。		

2	地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	地域団体、周辺施設等と連携した事業を実施できているか	のきさきアートフェア <目標>開催回数4回	2022年～4月1日(金)～3日(日)、9月18日(日)、11月13日(日) ※3月26日(日)開催予定 [来場者数] 延べ723人	のきさきアートフェアは、4月に黄金町アートブックバザールの店内で、9月と11月は京急高架下のロックカクを新たな会場に、実施した。 黄金スタジオのシェアキッチンには、事業者が卒業して独立した店舗を持つという良い傾向がみられる。 百貨店と強い協力関係があり、展示、ワークショップ等、今後も継続していきたい。 ロックカクでのイベントも、企業との連携により、円滑に進めている。 大学との連携については、これまで継続的に連携してきた大学に加え、他の3大学などと新たに連携して事業を行った。 平戸桜木道路に面した元事務所、ステップ・スリーは地域との距離が近いので、立ち寄りやすい新拠点として活用されている。また独自のワークショップ等も実施している。	
				黄金キッチン、日ノ出スタジオ運用	[日ノ出スタジオ] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoの運営 [黄金スタジオ] ・シェアキッチンの運営(総事業者数 6者)		
				企業協賛の獲得、企業連携の取組	・港南台の商業施設でのワークショップと展示(6月) ・京急百貨店での展示(9～10月、12月) ・京急高架下ロックカクでのイベント開催 ・のきさきアートフェア、ヨルノヨ・灯明ウォッチング		
				大学との連携	・夏休み子どもバザール2022 ・のきさきアートフェア ・はつこひアソビバ大作戦(大学との協働による子ども向けイベント) ・はつこひ市場 ・「大学における文化芸術関連事業」への展示・WS会場の提供(秋・冬2回)		
				ステップ・スリー	旧事務所スペースを地域との交流拠点として運営 ・大学生による活動 ・地域の方々とアーティストの交流拠点 黄金町のレジデンスアーティストの作品制作に地域住民がボランティアとして参加、作品制作に使うリサイクル材の受付等 ・アーティストによる子供向けWS ハロウィン ゾンビパレード ・協議会部会の打合せ会場		
バザールサポーター	・のきさきアートフェアの運営サポート(受付、設営・撤収) ・かいだん広場メンテナンス(清掃、塗装作業) ・イベント等レポート記事作成(Facebook、Instagram)						
3	産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	地域を活性化させるエリアマネジメントが行えているか	エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議/マスタープランの提案		地域団体との関係においては、地域住民がより主体的に関われるように役割分担を見直した。例えばまちづくりニュースでは、これまで企画、取材、編集についてすべてNPOで行っていたものを、企画、取材、記事執筆を広報イベント部会員が行い、NPOは編集、デザインを担うこととした。 地域、アーティスト、サポーターなどから黄金町バザールの開催を望む声を聞く機会が増えている。	協議会の業務をまちの人々と分担して行うなど、いい変化も見えてきたという点は、希望が持てる。引き続き期待したい。
				はつこひ市場開催支援	[実施内容] ・はつこひ市場 9月28日、11月13日、3月26日(予定)(計3回)		
				地域活動支援 大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携	・防災炊き出し訓練 ・黄金町BASE支援(かいだん広場活用) ・はつこひアソビバ大作戦(東小放課後キッズの参加)		
				初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール/Kogane-X Lab活動支援	・協議会役員会、定例会を隔月で開催 2023年秋の発足20周年記念事業へ向けた準備 ・まちづくり推進部会 地区計画策定に向けたアンケート実施 ・広報イベント部会 まちづくりニュースの発行 ・浄化推進部会 防犯パトロール、炊き出し訓練 ・地域商業推進部会 はつこひ市場開催、PR誌「はつこひさんぽ」発行		

総評	<p>各々の事業の充実は評価されるものだが、各事業の実施がそれぞれ独立した事象に映り、相互の結びつきが見えない。従前からの指摘である、事業の幅広い整理が必要である。ディレクターの世代交代は大変なことだと思うが、持続可能な体制のために重要な視点であり、実現に向けしっかり取り組んでほしい。</p>	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <p>事業の整理については、それぞれの事業の目的と、事業同士の関連性を含めた議論が横浜市を含めて必要である。</p>
----	---	--

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・体制に見合った事業の選択と集中が必要。初黄・日ノ出町エリアで行う必然性や差別化等の視点で精査すべき。 ・アーティストの受賞歴など、後年の活躍について可視化し、黄金町のAIRにおいてアーティストを育成してきた実績をよりアピールすべきである。AIRアーティストが黄金町を経験したから成長できたことをデータ化してほしい。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受ける中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。 ・一定の成果が上がる中で、次の10年間をどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。 ・その際に、これまで絡めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。 ・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のものとのバランスよく実施できており、黄金町の特色を出している。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。 ・黄金町の取組は世界的にもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで10年以上、着実に取組を続けてきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。 ・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。 ・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画か、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	象の鼻テラス	基本方針	①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す
運営期間	令和2年度～令和6年度（3年目／5年間）		
運営団体	株式会社ワコールアートセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価		
評価軸			自己評価	委員会評価	
1	無料休憩スペース/ 観光インフォメーション 運営	1 市民に開かれた無料休憩スペースを運営	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症拡大防止策は、次の通り継続。【出入口の専用通路／出入口のアルコール消毒設置／入口1箇所でも無人検温器設置／透明アクリル板設置／来場者への呼びかけ／マスク飲食実施店の認証(象の鼻カフェ)】 ●感染症の影響で、イベント中止やスタッフの陽性者も出たが、年中無休の営業を続けることができた。 ●観光インフォメーションにおいては、市民ガイドスタッフを中心に無理ない運営体制で臨んでいる。 ●常設展示に加え壁面展示型の催事を多く実施した。 ●利便性向上を目的とした開館時間延長(金・土曜の19時まで開館延長)や時間外活用の催事については、例年より縮小しながらもコロナ対策を徹底して実施した。 ●来場者数は、昨年比で上回っている(113%～148%)。コロナ前の2019年度との比較については、低い時では55%、多い時は130～150%。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残るが、またイベント参加者、来場者からクラスタが発生せず年中無休の運営が達成できていることは成果である。 ●観光インフォメーションを担当する市民ボランティアガイドの活動が自律的に続けられていることは成果である。協力催事の中で企画協力する場面ではガイドスタッフ有志が参加し成功を収めた。ただ、登録人数、その中でも中心的に活動するメンバーに限られてきたことは課題であり、今後体制を拡充する必要がある。 ●今期の方針でもあった長期型の催事を意識的に多く開催し、日常的な文化体験に繋げた。 ●来場者数の推移をみていると、2019年度を上回る月もあり、感覚的にも賑わいが戻りつつある雰囲気を感じている。旺盛な活動に移行しつつある社会情勢を鑑み、ネクスト・ノーマルのスタイルを保ちつつ次年度の運営に繋げたい。 	<p>コロナ禍が落ち着きつつある中で、来館者数が増加し、にぎわいが戻ってきている。会場使用に対して多くの問合せが来ているなど、海辺にあつて設備が整っている施設への期待値の高さを感じる。</p> <p>新規団体との連携あるいはパートナーシップが生まれ、効果が出てきていることは評価できる。</p> <p>ダンス縁日などでは、これまで参加料を課していなかったが、今年度より参加料を徴収するなど自助努力は評価できる。</p>
		2 観光インフォメーションの運営			
		3 利用者の利便性向上に資する取組			
2	運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制	<ul style="list-style-type: none"> ●4月に施設長が人事異動により交替。その他はコロナ禍でも人員削減することなく、昨年同様専従者を含む7人体制で推進した。今期は「イベントスケジュールの早期決定・催事実施判断の精査」を軸に、労働負荷改善と業務内容の充実に向け適時外部スタッフを配置して確実な運営に努めた。 ●外部催事やセミナー等への積極参加、当該スタッフの専門領域に関する自主イベントを実施するなど、各スタッフ自身が専門性を磨く時間を当てられるようサポート体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフ一同感染症対策に関しても高い意識を持ちながら、昨年に引き続き7名での運営を実施。イベントスケジュールの早期決定及び実施判断の精査に関しては施設長を中心に推進。「自助努力」としての、「事業性」の高い催事を多く実施しながらも業務負荷の低減ができたのは成果と考える。 ●各文化芸術事業の担当スタッフの経験値向上は事業推進においてもプラスになると考え、外部催事等への積極的な参加を促した。表現者として活動するメンバーもいるので、業務と各自の表現活動のバランスを意識した運営手法、職場環境づくりを今後も推進していく。 	<p>体制に対して業務量が多いが、広報やイベントの司会といった、専門性の高いところはアウトソーシングを行うなど、工夫もみられている。スタッフのキャパシティ・ビルディングについても、本人のスキルアップにつながるようなセミナーや公演活動へも参加を促すなど、象の鼻テラスの事業への還元が期待できるので、継続することが望ましい。</p>
		2 緊急時の体制			
		3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
3	施設の維持管理	1 施設の維持管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の維持管理については、定期的に設備点検を実施。修繕箇所について月次定例会にて市担当者との情報共有しながら順次対応している。長らくの懸案であった電気室の水漏れの補修対応と昇降パトンのメンテナンスを実施。引き続き安全上の優先度が高いものから修繕にあたるよう努めていく。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止策にかかる備品・設備を継続配置。 ●各催事で出入りする関係者や、一定時間を拘束するタイプの催しや催事の種類の種類によって参加者を対象に、来場時の検温実施と消毒を呼びかけ、記録に残すことを徹底した。(年度の途中から、義務付けが解除されたことから個人情報収集は取りやめ) ●パーク・テラス共に催事が多かった秋口に公衆トイレを中心に故障や破損が発生。利用者に迷惑を掛けないことを第一に、迅速に補修対応を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長らくの懸案であった、修繕とメンテナンスを実施できたことは成果と考えている。今後は、月例の定例会で実施している修繕必要箇所の共有と優先順位づけを継続し、安全面で不安のない状態での運営が基本となるよう意識づけをおこなっていく。 ●新型コロナウイルス対応は、市のガイドラインに基づき手指消毒、パーティションの設置など十分な対策を実施した。 ●集客催事について人数制限と検温・消毒の感染症対策を実施。当施設のイベントでのコロナ感染の報告は受けていない。 ●公衆トイレを中心に故障が多発した時期があったが、業者との密なコミュニケーションにより迅速に補修対応ができ、利用者からのクレーム等は発生していない。 	
		2 施設の小規模修繕・改善状況			
		3 安全対策、安全管理体制			
4	広報活動	1 象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ●スパイラル広報部と連携し、定期的な振り返りと広報フローの運用改善を実施。 ●SNSでは特にInstagramに焦点を当て、昨年度よりも戦略的且つ投稿数を増やして運用。地道な情報発信を続けている。 ●来期にウェブサイトをリニューアルを予定しており、わかりやすく発信力のあるサイトの構築に向けて動いている。 ●各事業の広報活動について、FUTURESCAPE PROJECTでは外部スタッフを配置し戦略的な活動に取り組めた。記録集の発行も予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●主にInstagramからのSNS発信に注力し、SNS広告を含め、日常のテラスの様子をより多くの人へ認知が広がるよう発信することができた。様々なジャンル・深度の活動を伝え、象の鼻テラス自体のファンが各方面に広がってきている。 ●使い勝手の良い発信性のあるWEBサイトへのリニューアルは、象の鼻テラス認知拡大につながると考えており、広報活動の振り返りと戦略的な広報計画を立てることで、リニューアル計画に活かし推進していく。 	
		2 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
		3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			
		4 海外を意識した情報発信(バイリンガル対応等)			

Ⅱ創造性／政策達成評価		評価の着眼点		事業計画(要旨)		実施結果		仮評価	
評価軸								自己評価	
								委員会評価	
1	創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	1	質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業	PORT JOURNEYS	●ディレクターズミーティングはオンラインで開催し、各都市の状況共有や2024年に向けた横浜での展開の元となるアイデアディスカッションを実施。ハンブルク、フローニンゲン、アテネ(ジョージア州)、光州、高雄、ヘルシンキ、レイキャビク、横浜から約20名の参加のもと行った。	[PORT JOURNEYS]物理的な行き来にハードルが高い昨今の状況を踏まえ、本事業の方針を模索しており、本ディスカッションは2024年度までの展開の方向性を固めるため実施した。コロナ禍の各都市の状況や各自が感じていることの共有ができた。来期以降の方針を立てることができた。	鶴見小野の取組は、地元の参画があり、創造性の種が郊外で花開いた一つの成果である。	象の鼻テラスのプロジェクトに参加し、育った人材・才能は財産である。こうした人材の活動を展開できるように、ネクスト・ステップの場として拠点間など、横のつながりを使って、横浜で創作活動をする方たちをエンカレッジする仕組みが望まれる。	
			□新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開 □多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供 □多様な文化芸術活動主体との連携	ゾウノハナバレエプロジェクト	●年間を通して実施した、身体を使った自由な表現を追求するワークショップには幅広い世代やバックグラウンドの人が参加した。 ●安藤洋子演出・振付による「Walk Installation ARUKU vol.3」公演を行った。約半年の濃密なクリエイションを重ねた11名の若手ダンサーと、アーティストのジョン・イ(韓国)による映像インスタレーションとともに舞台空間を作り上げた。	[BALLET]幅広い世代を対象とした内容に発展させたことで、ダンス経験者だけでなく様々な参加の動機をもつ人が集まり、広がりを見せている。公演「Walk Installation ARUKU vol.3」では自助努力で、公演費用を助成金で賄うことができ、さらに、初めて公演映像を公開することができた。			
				協力事業／フランス月間	●展示と、展示に関連し子ども向けのワークショップ、音楽ライブを実施。	[フランス月間]展示作品は環境問題や哲学を考えさせるもの。AR技術を用いた仕掛けも相まり、子どもから大人まで作品を体験する様子が伺え、質の高いアートプログラムを多世代にひらくことができた。			
		2	まちづくり、賑わいづくりに資する事業	ZOU-SUN MARCHE	●感染症対策を十分に配慮しながら安全性の高い運営を継続しつつ、マルシェのアイコンとなるよう、デザイン性の高い什器を増設した。 ●週末開催の通常マルシェに加え、よりテーマ性の高いマルシェを実施(税関150周年、ハワイアンマルシェなど)。	[MARCHE]コロナ対策を十分に行いつつ、新しい展開としてテーマ性の高いマルシェを複数実施できたことは、今後のマルシェの活動拡大にも繋がる成果と考える。新規に製作した什器も好評なので、市民に喜ばれるコンテンツとして拡充していきたい。	事業の効果や成果が見えるよう、統計データ、参加者アンケート等で把握している声があれば、ぜひ共有してもらいたい。		
			□都市文化観光への寄与 □都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動 □市民のQOL向上につながる事業展開	PORT JOURNEYS/weTREES TSURUMI プロジェクト	●weTREESにおいては、海外アーティストと2つのプログラムを実施。実行委員会事業でも企画協力として推進にあたった。 ●当初目標に掲げた鶴見小野での拠点づくりは「ONO POINT」がオープン。	[PORT JOURNEYS/weTREES]鶴見小野の事業では、他案件との組み合わせなどで海外アーティスト2組のプログラムが実現できた。目標に掲げた拠点が3年越しでオープンできたことは大きな成果である。			
		3	市民にとってより身近で開かれた事業	Atelier ZOU-NO-HANA	●象の鼻テラスの他の事業と連携し、子ども向けのワークショップを実施。 ●郊外の小中高等学校で「出前ワークショップ」するアウトリーチ。今回は3校を担当し、演奏、身体表現(ダンス、ジャグリング)などアーティストによる授業を実施。	[ATELIER]小学校派遣を通してクリエイティブ・チルドレン育成に寄与できている。また、これまでの活動を通じて、柔軟に子ども向けプログラムに対応できるアーティストとのネットワークができていく。	運営団体の安定した運営能力と質の高い文化事業の実践を評価した上で、運営面及び事業面においてさらなるレベルアップのために、以下の事項が今後、検討されることが望まれる。		
ETB(エレファント・トラベル・ビューロー)	●スタッフ有志が「税関150周年企画」に参加。イベントは成功を収めた。 ●近隣の船会社との連携企画「おさんぼクルーズ」も本格再開。人気により2便稼働。			[ETB]市民ガイドボランティアのチームの自律的かつ意欲的な活動が定着している。クルーズも臨時便で出していた2便運行が恒例化しており、象の鼻テラスの人気コンテンツである。企画推進に重心が置かれているため、通常の観光ボランティアのチーム体制の拡充は課題。					
ダンス縁日	●収益性の「自助努力」として、従来の無料参加方式から参加料徴収式に変更。コンテンツの高い集客力を評価され、企業協賛も獲得。			[ダンス縁日]参加者から参加料を徴収した事への異議はなく、むしろ「また是非参加したい」という方が多くいらっしゃった。初の企業協賛も獲得し、「自助努力」としての事業化コンテンツのモデルスキームになったと考えている。					
スナックゾウノハナ	●時間外活用プログラムは音楽ライブ、ダンス公演を主に実施。今年度は特に、夜の時間を活用した質の高い音楽ライブの実施に注力した。			[SNACK]音楽イベントを海辺のローケーションで開催できる象の鼻テラスの良さを多くのプロの音楽家に認知されてきており、今後も質の担保されたプログラムを実施していきたい。					
4	協力事業 □横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等との協力・連携	スローレーベル/ヨコハマ・パラトリエンナーレ	●ソーシャルサーカスの更なる普及を目的に、教材プログラムを横浜市内の個別支援級を含む小学校3校で実施、障害者関連施設へのスターターキット寄贈とモニターワークショップ実施や、年間を通じた講座「SLOW ACADEMY」をおこなった。SLOW ACADEMYの最終発表は象の鼻テラスで行われた。 ●独立行政法人国際交流基金の助成事業で日米ソーシャルサーカス交流を開始。	[SLOW]オリパラを経て次のステージに移行した1年。ソーシャルサーカスを活用した横浜発のダイバーシティインクルージョンを学ぶ教材プログラムを確立し、多くの展開を生み出した。運営側でも、障害のあるパフォーマーたちの新しい仕事になることも目指し、パラトリ参加経験のある障害者パフォーマーがアシスタントに参加しており、多様性のある社会のモデル事業として着々と実績を積んでいる。	1. 数値で把握できるデータなど、把握しておくようにするのが望ましい。その際、数値が独り歩きしないよう、定性評価、定数評価をバランス良く表記できるようにする。 2. 事業の社会的インパクトについても評価できる様式があるといい。 3. 事業や運営の更なる効率化及び効果を高めていくため、他の拠点とさらに連携が図れるといい。連携しつつ、市民のQOLの質を高めていくため、教育プログラム、鶴見の例にみられるように、市内への波及効果を高めていくこと。				
		その他協力事業	●新型コロナウイルス感染症拡大状況によりプログラム中止(1件)が生じたが、感染対策を主催者に徹底してもらいながら無事に推進。1月末時点で15プログラム実施、9組の新規連携パートナーを得た。	[協力催事]施設利用について多くの問い合わせを受けており、新たな団体との関係構築につながっている。恒例化した催事も多く、協働団体の拡がりを生み出していきたい。					
5	館内作品展示業務 □日常的に質の高いアート作品・映像作品の展示 □利用者に対する観覧案内・サポート	展示壁を中心とした長期展示 ・ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES ・PORT JOURNEYS	●ZOU-NO-HANA GALLERY SERIESを4回開催。 ●各種事業に関連し、アーカイブ映像の展示などを行った。	[館内展示]日常的な文化体験を意識し、ギャラリースリリーズは4つを実施。その他、BALLETプロジェクトの公演映像を展示するなどプロジェクトを知ってもらう機会創出にも繋がっている。PORT JOURNEYSとしての展示は今期実施に至らなかった。					
		6	便益施設(カフェ)運営 □カフェからの積極的な文化発信	・オリジナルイベントの開催 ・文化芸術事業との連動	[CAFE]アンケート収集を定期化により利用者の要望を把握する機会として有効に活用している。				
2	象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す	公共空間の活用	1	象の鼻パークとの一体的活用・ノウハウの蓄積 □象の鼻地区の魅力を上向きさせる活動	フューチャースケープ プロジェクト	●夜景にフォーカスして実施。「ヨルノヨ」と連携し、夜の時間帯の賑わい創出に寄与した。 ●招聘アーティスト、大学、企業ら出展者による、多種多様なプログラムを実施した。新規の大学から、2組の参加、新規2組の企業参加が得られた。 ●非接触型かつ一般市民の表現のプラットフォームとして公募型写真展「フューチャースケープ・フォトコンテスト」を立ち上げた。金賞受賞者展は2023年5月2日～7日で実施予定。	[FUTURE]「スマートイルミネーション」の開催状況について今でも問い合わせがあるほど、当企画を楽しみにする市民の存在を実感するが、今回のテーマ設定、さらに「ヨルノヨ」と連携したことで横浜全体で回遊性あるコンテンツづくりができたことは成果である。高齢層にもリーチしやすい写真をモチーフに新しいシリーズでは、公募点数は想定より少なく次回開催時には様々な課題はあるが、多世代が集まる場づくり、さらにネクスト・ノーマルを体現する非接触で参加できるスタイルを確立できたことは大きな成果である。	フューチャースケーププロジェクトは、横浜都心部の日本大通りから象の鼻にかけて創造性がリレーする姿が見られて、非常によかった。ヨルノヨと連携し、横浜の魅力である夜景を通じて水際線が繋がった。	

仮総評	<ul style="list-style-type: none"> ・象の鼻テラスらしい質の高いプログラムを多数実施しており、非常に充実したコンテンツとなっていることは評価できる。 ・事業を行うことによって何が変化しどういった影響があったか、事業の成果を広く浸透させていくためにも、数値などの目標を共有し確認していく必要もある。 	<p>【市の取り組むべき事項】 年々事業の取組が深化し、発展する中で、事業開始当初に立てた目標や評価軸を軌道修正していくことが必要な場合もある。事業の目的や着地点を運営事業者とともに考えてもらいたい。</p>
-----	---	--

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてもこれだけの活動を行い、実績を積み上げたことは高く評価できる。 ・これまでの成果を次の担い手へ繋いでいくことにも重点を置いてほしい。育てたところが主体的に活動していけるような事例を増やし、持続可能な発展をしていくことが望まれる。 ・事業内容は充実しているため、市民のクオリティ・オブ・ライフをどのように高めたのかといった社会的インパクトの観点からの成果を見える化する事も求められている。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。 ・事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。 ・体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築上げた実績は大きい。 ・これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。 ・アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。 ・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。 ・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)	基本方針	①関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる ②旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る
運営期間	平成28年度～令和12年度（7年目／15年間）		
運営団体	株式会社横浜DeNAベイスターズ		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 施設の運営状況	1 文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の価値を損なわないようにするため、社内で新たな取り組みが検討される際には、施設管理担当が必ず施設面についても確認を行うようにしている。 ・コミュニティスペースの利用状況については、事業報告書のとおり。ビジネススクールや子供向けアカデミーを始め、観光イベントなどでもコミュニティスペースを利用している。 ・3階会議スペースの利用状況については、事業報告書のとおり。 ・事業報告書のとおり、関内外地区における創造産業の集積のさらなる推進、日本大通り地区の賑わい創出につながる運営をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナによって、会員利用の需要が少し落ちているものの、ビジネススクールの参加者にコミュニティスペースの使用権利を付与し、参加者同士の交流の場として使用するなどコミュニティスペースの最大限の活用に向けて工夫することができた。 	広報について、球団HP、リリース、記者へのアプローチなど、内容に応じて必要なメディアを活用していることは価値である。行政と連携するなどして、地域に対しての発信がもっと加わるとよい。関内エリアに染み出て行けるような工夫があるとよい。
	2 コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？			
	3 3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？			
	4 事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？			
2 広報活動	1 施設及び各事業の効果的な工法活動・情報発信が行われているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンなイベント、ワークショップ等の発信コンテンツを定期的で開催している。 ・自社HP、拠点HPを中心とするオウンドメディア、SNSを活用した効果的な広報活動、情報発信に取り組んでいる。 ・プレスリリース等を通じて外部メディアへのイベント告知など戦略的に進めている。 ・イベント実施の際はメディアへの働きかけを行い記事にいただいている。 ・1FのPRコーナーでは、他の創造界隈拠点で行われるイベント等のちらしを配架し、創造都市横浜のPRを行っている。 	引き続き、球団公式SNSやプレスリリース・各イベントの趣旨に合わせたメディアへのアプローチに尽力し、ほぼ全てのイベントで集客に成功している。 また、メディアへの事前のアプローチを戦略的に行うことで、メディア露出の機会も増えている。 例 ワーキングハマスター…17件 職業体験…7件 ※いずれも波及元メディアのみ	
	2 創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？			
	3			
3 施設の維持管理	1 施設を法令順守して維持管理しているか？(特に文化財として)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理では、専門業者に委託し、維持管理に努めている。 ・施設の変更や修繕については、毎月、横浜市へ維持管理報告書を提出しているほか、利用方法の変更を検討の際にも、市へ事前に相談し、都度、判断を仰ぐようにしている。 ・安全対策、安全管理は、法令で定められた点検、検査などを実施している。 	建物が文化財であることを十二分に踏まえ、法令に遵守して維持管理をしている。 また、安全対策、安全管理についても怠ってはならず、その結果、これまで無事故で施設の維持管理をできていると自負している。	
	2 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
	3 利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？			
	4 安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？			

Ⅱ 創造性／政策達成評価						仮評価	
評価軸		評価の着眼点		事業計画(要旨)		実施結果	
						自己評価	
						委員会評価	
1	関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する	1	スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業等を総合的に実践できたか？	今年も下記4つの軸でイベントを実施し、網羅的に、スポーツ×クリエイティブを体現する。 軸①Next Ballpark Meeting 軸②ビジネススクール/子供向けアカデミー 軸③観光プロジェクト 軸④スポーツ×○○イベント	4つの軸に沿ってイベントを実施することができた。イベント詳細に関しては事業報告書のとおり。軸①～③では過去一番の実施回数・参加者数となり、これまで以上にTHE BAYSの活動を知ってもらおうきっかけを作ることが出来た。	運営側が企画したイベントを実施するだけでなく、Next Ballpark Meetingで出たアイデアの実現など、利用者のニーズにあったサービスを提供することができたことは進歩となった。また、ワーキングハマスタでは、試合観戦経験のない方・その日に試合観戦をしない方にも横浜スタジアムに足を運んでいただけるなどこれまでアプローチに苦戦していた野球ファン以外の層にも参加者の幅を広げることができ大きな成果となった。 また継続的にビジネススクールを実施し、総計100名の方に参加してもらうことができたり、小学生・中高生向けのアカデミー(職業体験プログラム)を実施し、未来を担う子どもたちにまでイベント対象の幅を広げ、創造産業創出に向けて徐々に人を集める土台が出来上がってきている。	参加者の属性をしっかりと把握しており、申込段階のデータを分析して、次の企画立案にも反映している。データの活用と広がりが評価できる。 BAYSでは、自ら事業を実施することにとどまらず、地域のエコシステム形成に参画していくことも可能と考える。
		2	新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか？(創造産業創出にかかる人材等の集積や出口の創出に向けた活動が進んでいるか？)	横浜スタジアムをCSLの会議室として活用し、市民に向けたコミュニティホールパークを目指すとともに、多くのステークホルダーの方が集まれる場を拡大していく ビジネススクールでは起業意識が高いビジネスマンや、スポーツビジネスに興味がある方を集積し、イノベーターの発見・育成をしていく	ワーキングハマスタとしてスタジアム会議室の利用をスタートさせ、試合日・非試合日合わせて、555名の方に利用いただくことができた。またメディアにも多く取り扱っていただき、THE BAYSの宣伝にも繋がった。またワーキングハマスタ利用後にCSLを使えるプランを作成することで、THE BAYSの集客にもつなげることができた。 ビジネススクールは計2回実施することができ、狙い通りのターゲットの方に参加していただいている。また参加人数を増やすことができ、さらなる収益にもつながった。		
		3	創造境界のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか？	子供向けアカデミーでは、関内外で活躍するクリエイターやCSLの会員とコラボし、継続的な交流・連携を促す。	これまで実施していた小学生向けのプログラムを中高生にまでその幅を広げることができた。また、イベントでは地域の企業や市民の方との連携を行うことができた。		
2	本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	1	日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか？	コロナ禍においてニーズが高いランチタイムでのオープンテラスや中庭への集客に力を入れる	昨年度に引き続き、コロナの影響でランチの時間帯には多くのお客様にオープンカフェや中庭を利用していただいた。またイベントに関しても観光ツアーのゴール地点として中庭利用いただいた。	野球興行の観客動員数増加に伴って、野球イベントと連携した企画を実施し、来館者数を増やすことができた。またチアスクールやランニングスクールなどのスクール生には定期的にTHE BAYSまで足を運んでもらえている。 さらに観光プロジェクトに加え、ワーキングハマスタなどを通じて、THE BAYSや横浜スタジアムおよびその周辺への集客ができたことは成果となった。 今後はアフターコロナとして、観光客が増えていくことが見込まれるので観光客や海外の方にも足を運んでもらい、日本大通り地区の賑わいに繋がるような施策を検討していきたい。	エリアで行われるイベント等の他者のクリエイティブの取組と連携するなど、拠点として、まちのにぎわいへの寄与を強く発信することが望ましい。
		2	日本大通り地区の事業に参加・協力しているか？	日本大通り活性化委員会への参加/その他日本大通り沿いのイベントに参加する	引き続き日本大通り活性化委員会への参加や、オープンカフェの実施をした。		
		3	スポーツ×クリエイティブという視点から、創造境界の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか？	ビジネススクールでは関内外の活性化をテーマとした解決策を参加者とともに検討していく。観光では引き続き、THE BAYS.日本大通りという枠を超えて関内外や横浜のまちを楽しんでいただくプログラムを創り出す	ワーキングハマスタや観光ツアーの実施など、THE BAYSや日本大通りという枠を超えた取り組みを日常的に実施できた。またビジネススクールでは関内周辺の見学ツアープログラムなども取り入れ、ビジネスマンに関内外について知ってもらう機会を作っている。		

仮総評	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業のノウハウによって、戦略的に事業を実施している。 ・多様な事業を実施している一方で、民間企業の単独の取組のように見えている。個々の取組の相関図などにより、全体の目標に対する各事業の位置づけを意識できるとよい。 ・横浜スポーツタウン構想への関わりが見えるようにしてほしい。 	【市の取り組むべき事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な身近なつながりの戦略がほしい。局の組織にスポーツの部局が入るとのことなので、連携を期待したい。 ・運営事業者とともに、個々の取組の相関関係がわかる図を作るべき。また、定量、定性にかかわらず、指標を設定することが望まれる。
-----	--	--

これまでの総評	R2	コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていきたい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張してほしい。 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携してほしい。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・創造産業の集積に対する取組を行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。 ・新規の取り組みへの投資もしながら健全経営をしている。 ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。
	H29	<ul style="list-style-type: none"> ・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。 ・今後さらに、活用事業者と市の協力(及び他の拠点との連携)により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。

令和5年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	文化芸術創造発信拠点 (BankART1929)	基本方針	(1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築 (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立 (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり
運営期間	平成30年度～令和6年度 (6年目/7年間)		
運営団体	特定非営利活動法人 BankART1929		

【事業計画及び事業評価】

I 運営/経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支			
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
	3 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率			
2 施設の維持管理状況	1 施設の管理状況			
	2 施設の修繕・改善状況			
	3 安全対策			
	4 その他			
	・BankART Station (隣接する道路区域を含む) ・BankART KAIKO ・その他			
3 運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇			
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
4 広報・発信	1 先駆的な創造活動の国内外に向けた発信強化			
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	4 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点		事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸						自己評価	委員会評価
1	地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<input type="checkbox"/> スタジオ事業 ・AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業 ・台北との交換AIRの実施			
		2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<input type="checkbox"/> みなとみらい21地区全域にまたがるプログラム(キング軸アートテーブル、食と現代美術) <input type="checkbox"/> インディーズ202X(18区展開) <input type="checkbox"/> スクール事業 <input type="checkbox"/> カフェ・ショップ事業 ・カフェ:他事業との連携 ・ショップ:多様な販売形態			
		3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<input type="checkbox"/> 主催企画展 ・Under35/Over35の開催 ・BankART Life 7(ヨコトリとの連携事業) <input type="checkbox"/> コーディネート事業 ・YPAM、卒展、企業展など <input type="checkbox"/> スクール事業 ・年間16講座開催 ・オンライン、アーカイブ公開の本格的な推進 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 ・各企画展のカタログ発行 ・オリジナルコンテンツ書籍発行			
2	他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 台北市との芸術家相互派遣プログラム ・台北との交換AIRの実施 <input type="checkbox"/> その他 ・統・朝鮮通信使 ・視察、講演、共同事業やコーディネート事業の受入れ			
3	創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 ・Under35/Over35の開催 ・AIRの開催(オープンスタジオの開催) ・BankART Station Theatre の開催 ・BankART KAIKO Pop-up Store の開催 <input type="checkbox"/> コンテンツ事業 ・Under35/Over35 作家のカタログ制作 <input type="checkbox"/> その他 ・AIR参加アーティストの周辺への誘致			

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができている。 ・道路の使い方や企業とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。 ・BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。 ・みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。 ・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。

令和5年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	急な坂スタジオ	基本方針	①アーティストが作品を「つくる」支援と、その体制を「ととのえる」支援【サポートアーティスト制度の拡充】 ②次代を担う人材(アーティスト・観客双方)が出逢う場所【学びと交流を目的とした事業展開】 ③誰もが安心して使える稽古場【状況に応じて柔軟な利用を可能にすると同時に安定した稽古場経営の徹底】 ④新しいディレクターの育成【アーティストを支える人材の世代交代による、10年先を見通す新体制の確立】
運営期間	令和4年度～令和9年度(2年目／5年間)		
運営団体	特定非営利活動法人アートプラットフォーム		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1	経済的な基盤の確立	1 全体事業収支		
		2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等／その内訳と比率)		
		3 施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの)に対する年間利用料金収入の割合		
2	施設の運営・管理	1 施設の利用状況(部屋別稼働率・延べ来館者数及び利用団体数)		
		2 施設の管理状況		
		3 施設の修繕・改善状況		
		4 安全対策・危機管理体制		
3	運営体制・労務管理	1 常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制		
		2 年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)		
		3 スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況		
4	広報・情報発信	1 各事業の効果的な広報活動・情報発信(利用者・市民に向けたものを含む)		
		2 市の施策に協力した創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信		
		3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)		

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価				委員会評価	
1	舞台芸術を中心とした創造活動の場	1	<p>創作の場の提供 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか</p>	<p>状況に応じた稼働率の設定・達成</p> <p>新規広報媒体の検討</p> <p>ハラスメント対策への取り組み</p>		
		2	<p>創造活動への支援 快適な創作活動を行うために必要なサポートを行うことで、アーティスト達が育ち・続けていくための創造環境が整備されているか</p>	<p>サポートアーティスト</p> <p>急な坂プロデュース</p> <p>新規(若手)利用団体へのサポート</p> <p>人材育成プログラム(急な坂アトリエ、相談室plus)</p> <p>サイトを活用した取組(劇評連載、アーカイブ)</p>		
2	舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1	<p>アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか</p>	<p>ワークショップなど市民に開かれた取組</p> <p>様々な人材が集まり、学び、交流する場として機能しているか</p> <p>新たなディレクターを選考・育成し、次世代への継承を図れているか</p>		

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、オンライン等も活用しつつ、小学校へのアーティスト派遣を無事に行えたことは評価できる。 ・レジデンスアーティスト、サポートアーティストが令和3年度で一旦全員卒業となったが、メンターとして寄り添いながら信頼関係を築いてきた点が評価できる。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。 ・アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中につながっていると感じる。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができている点が評価できる。 ・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができている。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。 ・相談室plusや新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。 ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。

令和5年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	初黄・日ノ出町文化芸術拠点	基本方針	◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う ①文化芸術の力で新しい価値観を産み出し、地域の活性化 ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営 ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する
運営期間	令和5年度		
運営団体	黄金町エリアマネジメントセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
全体事業収支	1 全体事業収支			
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
事業収入	1 黄金町バザール・企画展・イベント等収入(チケット収入等)			
	2 黄金町芸術学校(受講料)			
	3 高架下スタジオ利用料			
	4 その他物件家賃収入			
	5 ギャラリー等販売手数料			
	6 その他(助成金、協賛金等)			
施設の維持管理状況	1 施設の利用状況(管理施設数、稼働状況)			
	2 施設の管理状況			
	3 施設の修繕・改善状況			
	4 安全対策・危機管理体制			
運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇			
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
広報・発信	1 地域再生のモデル地区としての発信			
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	4 事業のアーカイブの作成、発信(AIRアーティストのその後の活動状況の見える化を含む)			

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	評価の着眼点			自己評価	委員会評価
文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	アーティストへの滞在・制作・発表の場の提供 アーティスト支援の充実が図れているか 他のAIR事業との差別化が図れているか	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売 協力/勉強会実施/広報協力 <目標>入居者数(長期)50組(短期)20組、施設整備数8件		
	2	国際的なネットワークの強化	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/海外展示/東アジア文化都市交流/海外アート紹介/海外向け情報発信 <目標>交流団体5団体		
	3	年間を通じた賑わいづくり 日常的にアートに触れる機会の創出	展覧会・イベント 黄金町春のバザール(企画展示、商店会連携企画など)/黄金町夏休み子どもバザール(ワークショップ、発表展示)/黄金町秋のバザール(国際AIR、イベント等) /黄金町冬のバザール(企画展示、イベント等) <目標>年間7企画 <目標>来場者数10,000人		
	4	販路拡大	黄金町芸術学校 <目標>講座数10講座、受講者数100人		
地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	地域団体、周辺施設等と連携した事業を実施できているか	のきさきアートフェア <目標>開催回数4回		
			黄金キッチン、日ノ出スタジオ運用		
			企業連携の取組、企業協賛の獲得		
			ステップ・スリー		
産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	地域を活性化させるエリアマネジメントが行えているか	パザールサポーター		
			エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議のための枠組みづくり 地域住民の主体的な参加		
			はつこひ市場開催支援		
			地域活動支援 大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携		
		初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール/			

総評	【市の取り組むべき事項】
----	--------------

これまでの総評	R3	・体制に見合った事業の選択と集中が必要。初黄・日ノ出町エリアで行う必然性や差別化等の視点で精査すべき。 ・アーティストの受賞歴など、後年の活躍について可視化し、黄金町のAIRにおいてアーティストを育成してきた実績をよりアピールすべきである。AIRアーティストが黄金町を経験したから成長できたことをデータ化してほしい。
	R2	・新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受ける中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。 ・一定の成果が上がる中で、次の10年間をどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。 その際に、これまで絡めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。
	R1	・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。 ・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のものとバランスよく実施できており、黄金町の特色を出せている。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。 ・黄金町の取組は世界的にもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。
	H30	・これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。 ・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。 ・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画が、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。

令和5年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	象の鼻テラス	基本方針	①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す
運営期間	令和2年度～令和6年度（4年目／5年間）		
運営団体	株式会社ワコールアートセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 無料休憩スペース/ 観光インフォメーション 運営	1	市民に開かれた無料休憩スペースを運営		
	2	観光インフォメーションの運営		
	3	利用者の利便性向上に資する取組		
2 運営体制	1	スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制		
	2	緊急時の体制		
	3	スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組		
3 施設の維持管理	1	施設の維持管理状況		
	2	施設の小規模修繕・改善状況		
	3	安全対策、安全管理体制		
4 広報活動	1	象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信		
	2	創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信		
	3	事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)		
	4	海外を意識した情報発信(バイリンガル対応等)		

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価(成果・変化)				委員会評価	
1	創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	1	<p>質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業</p> <p><input type="checkbox"/>新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開</p> <p><input type="checkbox"/>多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供</p> <p><input type="checkbox"/>多様な文化芸術活動主体との連携</p>	<p>[今年度のテーマ] 深化するクリエイティブ・シチズン 多様な市民による主体的な表現活動の集積</p> <p>○ネクストノーマルにおける事業転換へ 以下3点を軸に文化芸術事業を推進 ①伴奏者であるアーティストによる質の高い表現の日常的展開(実施事業:ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES、フランス月間) ②市民表現のプラットフォームである各種プロジェクトの継続実施(実施事業:ZOU-SUN-MARCHE、ダンス緑日、FUTURESCAPE PROJECT/フォトコンテスト) ③市民が主体的に関わり、相互交流を前提とする「学び」の場の創出(実施事業:PORT JOURNEYS、ZOU-NO-HANA BALLET PROJECT)</p>		
		2	<p>まちづくり、賑わいづくりに資する事業</p> <p><input type="checkbox"/>都市文化観光への寄与</p> <p><input type="checkbox"/>都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動</p> <p><input type="checkbox"/>市民のQOL向上につながる事業展開</p>	<p>○発展的な海外連携 PORT JOURNEYSにおいて、オンライン・オフラインに拘らないかたちとして、世界の拠点、プレーヤーと共通のテーマに基づき市民参加型のリサーチプログラムを企画。</p> <p>○テラスの活動の郊外展開 weTREESでは鶴見小野の新拠点「ONO POINT」の持続的運営、Atelier ZOU-NO-HANAでは、教育プラットフォーム事業でアーティスト派遣のコーディネートを行う。</p>		
		3	<p>市民にとってより身近で開かれた事業</p> <p><input type="checkbox"/>市民参加プログラム、教育プログラムの充実</p> <p><input type="checkbox"/>市内教育機関、文化施設等との連携</p> <p><input type="checkbox"/>ガイドボランティアの自立性強化</p>	<p>○事業の効率化と運営費拡充の模索</p> <p>①事業の効率化 長期間開催型を軸にした展開で日常的に等しく体験できる施設運営</p> <p>②運営費拡充の模索 外部団体利用時の設定金額改定、市民参加ステージの参加料設定、協力・協業相手の新規開拓</p>		
		4	<p>協力事業</p> <p><input type="checkbox"/>横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等との協力・連携</p>	<p>TOKYO GENDAI開催中にSNACK ZOU-NO-HANAを開催。横浜トリエンナーレ期間中はPORT JOURNEYSの成果発表を実施。創造都市20周年関連事業の実施。</p>		
		5	<p>館内作品展示業務</p> <p><input type="checkbox"/>日常的に質の高いアート作品・映像作品の展示</p> <p><input type="checkbox"/>利用者に対する観覧案内・サポート</p>	<p>ZOU-NO-HANA GALLERY SERIESにおいて、展示壁を中心とした長期展示の実施。フランス月間の実施。</p>		
		6	<p>便益施設(カフェ)運営</p> <p><input type="checkbox"/>カフェからの積極的な文化発信</p>	<p>名物メニューの開発、お土産の開発、アーティストカフェとしてのオリジナルスタイルの提案を実施。外部展開による運営費拡充を模索。</p>		
2	象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す	<p>公共空間の活用</p> <p><input type="checkbox"/>象の鼻パークとの一体的活用・ノウハウの蓄積</p> <p><input type="checkbox"/>象の鼻地区の魅力を向上させる活動</p>	<p>FUTURESCAPE PROJECTにおいて、新しい活用の模索。パークのテラス席の拡大、キッチンカー、マルシェについてFSP開催期間外での屋外展開の可能性を探る。</p>			

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてもこれだけの活動を行い、実績を積み上げたことは高く評価できる。 ・これまでの成果を次の担い手へ繋いでいくことにも重点を置いてほしい。育てたところが主体的に活動していけるような事例を増やし、持続可能な発展をしていくことが望まれる。 ・事業内容は充実しているので、市民のクオリティ・オブ・ライフをどのように高めたのかといった社会的インパクトの観点からの成果を見える化する事も求められている。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。 ・事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。 ・体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築き上げた実績は大きい。 ・これからの5年、10年を見据えうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。 ・アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。 ・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。 ・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。

令和5年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)	基本方針	①関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる ②旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る
運営期間	平成28年度～令和12年度（8年目／15年間）		
運営団体	株式会社横浜DeNAバイスタース		

I 運営／経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1	<施設の運営状況>	1 文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？		
		2 コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？		
		3 3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？		
		4 事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？		
2	<広報活動>	1 施設及び各事業の効果的な広報活動・情報発信が行われているか？		
		2 創造都市横浜のPRIにつながる工夫がなされているか？		
3	<施設の維持管理>	1 施設を法令遵守して維持管理しているか？（特に文化財として）		
		2 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？		
		3 利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？		
		4 安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？		

II 創造性／政策達成評価					事業評価			
評価軸		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	市の取組	自己評価(成果・課題)	委員会評価	
1	[多様性/バリエーション] 関内外地区において、多様な人材による創造的な産業や創造的な活動をさらに活性化し推進する	1	[創造的な取組であるか？] スポーツ×クリエイティブというコンセプトを通じて、多様な人々による創造的な活動を促進する創造的な事業等を実践できたか	基本的にはTHE BAYS内主催のすべてのイベントでスポーツ×クリエイティブをコンセプトとする 特に下記3つの目的に沿ってそれぞれのイベントを実施していく ・軸1 人材集約・育成のきっかけ作り ・軸2 横浜のまちにしみ出していく ・軸3 ベイスターズとしての価値向上		<関係部局等との連携の推進> <文化観光局の等媒体を活用した広報協力>	<成果> <課題>	
		2	[創造的な人材や事業を育成し、巻き込んでいるか？] 創造的な活動に取り組む人材の育成や、創造的な活動に取り組む企業、大学、市民、行政との交流・連携が展開されているか	ビジネススクールと子供アカデミーで各ステークホルダーと連携していく ①ビジネススクール 引き続き、ビジネスマンやスポーツビジネスに興味がある人材を育成・集積していく ②子供向けアカデミー 小学生から大学生までを対象に、横浜のまち・スポーツビジネスに興味を持ってもらい、将来横浜で創造的な活動に取り組む人材を育成する				
		3	[創造的なPJが生まれ、THE BAYS外にアウトプットされているか？] 創造的な取組を通じて、新たな産業やプロジェクトが創出され、実際に関内外エリアないしは横浜都心部エリアに展開されているか	①ワーキングハムスタを発展させ、ワーケーションプランとしてTHE BAYS・横浜スタジアム周辺に来てもらえるような取組を行う ②観光ツアーでは引き続き試合日のツアーを実施しながら、非試合日のプラン作成にも再挑戦し、関内外エリア及び横浜のまちに出ていく取組を行う				
2	[波及効果/インパクト] 本施設の活用を通じて日本大通りをはじめとした横浜都心部の賑わい創出、及びエリア全体の価値向上を図る	1	[エリアマネジメント/エリアブランディング的な波及効果] 日本大通りを中心とした横浜都心部の事業に参加・協力をし、エリア価値の向上に寄与しているか	①日本大通り活性化委員会への参加、そのほか日本大通り沿いのイベントに参加する ②テラス、中庭を活用した集客によって、賑わいを作る +Bや&9、地下1階では野球ファンだけでなく、日常的にTHE BAYSを使ってくれる来館者を増やし、エリア価値向上に寄与する		<エリアの関係者との連携の推進> <文化観光局の等媒体を活用した広報協力>	<成果> <課題>	
		2	[クリエイティブ/ウェルビーイングへの波及効果] スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化による市民のQOL向上にも活動を広げているか	①観光ツアーでは引き続き、THE BAYS日本大通りという枠を超えて関内外や横浜のまちを楽しんでいただくプログラムを創り出す ②+B、&9、地下1階では日常的に市民のライフスタイルに寄り添った商品・プログラムを開発する				

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> ・総じて様々な事業に精力的に取り組んでいただいている。報告の仕方として、事業に参加した方の変化や街への波及効果などを盛り込んで、BAYSの取組により、どのようなインパクトがあったのかを示してほしい。 ・開館から5年経過したので、これまでの成果や当初想定されなかったことなどを踏まえ、THE BAYSの取組が関内外の住民あるいは横浜市民に対してどのような価値が提供できているのかといった観点から市とともに評価軸を検討してほしい。
	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていただきたい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張してほしい。 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携してほしい。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・創造産業の集積に対する取組を行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。 ・新規の取り組みへの投資もしながら健全経営をしている。 ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。